



向上と進展



[発行所] 公益社団法人 日本学生陸上競技連合
〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-58-11 中沢ビル2階
TEL 03-5304-5542 FAX 03-5304-5569

新年のご挨拶

会長 松本 正之

皆様には、お元気で新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。日頃は、公益社団法人日本学生陸上競技連合に対し格別のご理解とご協力をいただきありがとうございます。

昨年は、パリ五輪が開催され、日本学生陸上界からは5名の選手が出場しました。日本の代表として世界の舞台上で力強いパフォーマンスを発揮してくれました。今年では東京で世界選手権が開催されます。より多くの学生が日本の代表として戦い、日本陸上界を盛り上げてくれることを期待します。

6月に開催した2024日本学生陸上競技個人選手権大会(神奈川県・平塚市)では、女子100mでU20日本新記録が樹立され、男子100mでは追い風参考ながら9秒台がマークされるなど非常にハイレベルな大会となりました。7月には秩父宮賜杯第64回実業団・学生対抗陸上競技大会(神奈川県・平塚市)を開催し、パリ五輪を控えた選手たちが多く出場しました。学生チームにとっては、今回も実業団の高い壁を痛感させられる結果となりましたが、それと同時に日本のトップレベルを目の当たりにして刺激を受けた大会でもありました。そして、9月に開催いたしました天皇賜盃第93回日本学生陸上競技対校選手権大会(神奈川県・川崎市)では、男子400mハードルでU20日本新記録、男子4×100mリレーで日本学生新記録が樹立されました。対校戦では男子は順天堂大学、女子は日本体育大学が、それぞれ4年連続となる総合優勝を飾りました。

駅伝シーズンに入り、10月の第36回出雲全日本大学選抜駅伝競走では、國學院大學がアンカー対決を制して5年ぶり2度目の優勝を飾りました。「杜の都仙台」で開催いたしました第42回全日本大学女子駅伝対校選手権大会では立命館大学が9年ぶり11度目の優勝を果たし、11月の伊勢路で開催いたしました秩父宮賜杯第56回全日本大学駅伝対校選手権大会では出雲駅伝に続き國學院大學がアンカー対決を制し、初優勝を飾りました。

上記の大会を無事に終了できましたのも、関係者の皆様のご支援、ご協力の賜物と深く感謝申し上げます。

なお、2024年度内行事として2月に男子の学生ハーフマラソン選手権を香川丸亀国際ハーフマラソン大会との併催として開催します。また、3月には女子の学生ハーフマラソン選手権(鳥根県・松江市)、日本学生20km競歩選手権(石川県・能美市)が控えております。

新年度は、4月に2025日本学生陸上競技個人選手権大会(神奈川県・平塚市)、6月に天皇賜盃第94回日本学生陸上競技対校選手権大会(岡山県・岡山市)を開催いたします。関係各位におかれましては何卒ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

新しい年を迎え、学生競技者諸君の一層の「向上」と「進展」を願うと共に関係者の皆様には、引き続き温かいご理解・ご指導をお願い申し上げます。新年のご挨拶といたします。

令和7年正月

公益社団法人 日本学生陸上競技連合 会報 第172号 (令和7年1月20日発行)

向上と進展

目次

新年のご挨拶	1
【大会報告】	
第36回出雲全日本大学選抜駅伝競走	3
第42回全日本大学女子駅伝対校選手権大会	6
秩父宮賜杯第56回全日本大学駅伝対校選手権大会	9
2024全日本大学女子選抜駅伝競走	12
【海外派遣】	
Zevenheuvelenloop 2024～セブンヒルズ・ロードレース 2024～	15
【会議報告】	
令和7年学生役員会議	19
第69回理事会 議事録	20
【報告等】	
「陸上競技研究」発行における令和6年度スポーツ振興くじ助成金の実施予算について	28
強化委員会・競技委員会より	29
普通会員数報告	30
賛助会員募集／入会報告／編集後記	31

【大会報告】

第36回出雲全日本大学選抜駅伝競走

副幹事長 横川 侑香

1. 大会名：第36回出雲全日本大学選抜駅伝競走
2. 大会期日：2024年10月14日（月・祝）
3. 場所：鳥根・出雲市
出雲大社正面鳥居前～出雲ドーム前
4. エントリー数：21チーム
5. 大会総括

10月14日（月・祝）、駅伝シーズンの幕開けとなる出雲全日本大学選抜駅伝競走が行われ、出雲大社正面鳥居前から出雲ドーム前までの全6区間45.1kmの出雲路を、全21チームが力強く駆け抜けました。念願の初出場を決めた岡山大学をはじめ、大会史上初めて国立大学が4校出場するなど大いに盛り上がりました。

本大会に出場する多くの競技者がさまざまな競技会で活躍を見せ、各大学の実力が拮抗するなか、今年は國學院大學が5年ぶり2度目の優勝を果たしました。

1区では、IVYリーグ選抜から東京五輪10000mに出場した経験があり、5000mで13分08秒41を持つキラン・トゥンティバイト選手（ハーバード大）が集団に揺さぶりをかけながら推移していく展開となりました。3月の日本学生ハーフマラソン選手権大会で優勝した國學院大學の青木瑠郁選手が残り1km付近でスパートをかけましたが、残り600m付近で得意のスパートを見せた青山学院大学の鶴川正也選手が1区で2区に襷をつなぎました。

コースの中で最短区間であり、スピードが重要とされる2区では、10位から1位へと順位を押し上げた創価大学の吉田響選手が区間賞を獲得しました。3区で

は、青山学院大学の黒田朝日選手がチームを首位に押し上げる走りを見せました。また、城西大のヴィクター・キムタイ選手が7人抜きでの激走で5位に浮上し、表彰台争いは熾烈なものとなりました。

4区以降は、國學院大學、駒澤大学、青山学院大学が首位を争うレース展開となり、6区には3度目の6区となる國學院大學の平林清澄選手、駒澤大学の篠原倅太朗選手にほぼ同時に襷が渡ると、4km地点で平林選手がロングスパートを仕掛け、勢いそのままに圧倒的な走りでフィニッシュテープを切りました。

大会結果としては、1区6位スタートから3区で2位まで上げて流れを作った駒澤大学が2位、青山学院大学が3位に入りました。また、次大会出場枠の争いでは、3区で13位に浮上し、その後の区間でも粘り強い走りを見せた北信越学連選抜が13位でフィニッシュし、北信越学連が史上初の2枠を獲得しました。6区では北海道学連選抜の伊藤徹選手（札幌学院大）が順位を上げて14位に入り、北海道学連の増枠に貢献しました。

2024年も無事に大会を開催することができましたのも、主催の出雲市、ご協賛いただいている富士通Japan株式会社、ご協力いただいている出雲全日本大学選抜駅伝競走組織委員会をはじめとする、多くの方々のご支援ご協力があったことと深く感謝申し上げます。

2025年度も素晴らしい大会となるよう日々邁進してまいりますので、今後ともよろしくお願いいたします。



出雲大社正面鳥居前をスタートする21チームの1区選手たち



5年ぶり2回目の優勝を飾り、ガッツポーズでフィニッシュした国学院大学のアンカー・平林清澄



後半追いつけた駒澤大学が2位。写真は4区区間3位の伊藤蒼唯(左)から5区・島子公佑へのタスキリレー

1区・鶴川正也(右)の区間賞で発進した青山学院大学は、後半区間で伸びずに3位だった



創価大学が過去最高の4位に食い込む。写真は2区でトップに立つ力走を見せた吉田響



IVYリーグ選抜が5位と健闘。キーンランド・トゥンティベイト(写真)が1区2位と好走して流れを作った



1区12位から巻き返した早稲田大学が6位でフィニッシュ。写真はアンカーの工藤慎作



前回2位の城西大学は7位で連続入賞を確保。3区ではヴィクター・キムタイ(写真)が区間賞・7人抜きでチームを牽引

1区4位から堅実につないだ帝京大学が8位。写真は4区・楠岡由浩(右)から5区・鎗田大輝への中継



4 大会報告

第36回出雲全日本大学選抜駅伝 成績

上段=総合成績
下段=区間成績

チーム名	1区 (8.0km)	2区 (5.8km)	3区 (8.5km)	4区 (6.2km)	5区 (6.4km)	6区 (10.2km)	総合成績 (45.1km)
①國學院大	青木 瑠郁(3) (3) 23.48	山本 歩夢(4) (5) 40.15 (5) 16.27	辻原 輝(2) (3) 1.04.27 (4) 24.12	野中 恒亨(2) (3) 1.22.09 (1) 17.42	上原 琉翔(3) (1) 1.40.21 (1) 18.12	平林 清澄(4) (1) 2.09.24 (1) 29.03	2.09.24
②駒澤大	桑田 駿介(1) (6) 23.55	梶山 侑大(3) (6) 40.19 (4) 16.24	山川 拓馬(3) (2) 1.04.11 (2) 23.52	伊藤 蒼唯(3) (1) 1.22.00 (3) 17.49	島子 公佑(2) (2) 1.40.25 (2) 18.25	篠原倅大朗(4) (2) 2.10.04 (3) 29.39	2.10.04
③青山学院大	鶴川 正也(4) (1) 23.40	野村 昭夢(4) (3) 40.12 (6) 16.32	黒田 朝日(3) (1) 1.04.07 (3) 23.55	宇田川瞬矢(3) (2) 1.22.05 (5) 17.58	若林 宏樹(4) (3) 1.40.45 (5) 18.40	太田 蒼生(4) (3) 2.10.24 (3) 29.39	2.10.24
④創価大	石丸 惇那(3) (10) 24.06	吉田 響(4) (1) 39.52 (1) 15.46	山口 翔輝(1) (4) 1.04.49 (7) 24.57	吉田 凌(4) (4) 1.22.45 (4) 17.56	黒木 陽向(3) (4) 1.41.30 (6) 18.45	小暮 栄輝(4) (4) 2.11.47 (6) 30.17	2.11.47
⑤アイビーリーグ選抜	K.タウンティペイト (ハーバード大) (2) 23.48	W.バッターズヒル (ハーバード大) (2) 40.06 (2) 16.18	T.バーグ (コロンビア大) (6) 1.05.05 (8) 24.59	A.アイバーソン (ハーバード大) (5) 1.22.51 (2) 17.46	M.ブレイヤ (ハーバード大) (6) 1.41.58 (9) 19.07	R.ミランダ (イエール大) (5) 2.12.18 (7) 30.20	2.12.18
⑥早稲田大	山口 智規(3) (12) 24.09	伊藤 大志(4) (11) 40.58 (10) 16.49	山口 竣平(1) (11) 1.06.13 (11) 25.15	藤本進次郎(3) (9) 1.24.17 (7) 18.04	長屋 匡起(2) (8) 1.42.48 (3) 18.31	工藤 慎作(2) (6) 2.12.23 (2) 29.35	2.12.23
⑦城西大	斎藤 将也(3) (11) 24.06	山中 達貴(3) (12) 41.15 (13) 17.09	V.キムタイ(3) (5) 1.04.57 (1) 23.42	平林 樹(4) (6) 1.23.14 (9) 18.17	鈴木 健真(3) (5) 1.41.46 (4) 18.32	久保出雄太(4) (7) 2.12.34 (9) 30.48	2.12.34
⑧帝京大	山中 博生(4) (4) 23.53	尾崎 仁哉(3) (7) 40.25 (6) 16.32	廣田 陸(2) (9) 1.05.33 (9) 25.08	楠岡 由浩(2) (8) 1.23.45 (8) 18.12	鎗田 大輝(3) (9) 1.43.09 (11) 19.24	福田 翔(4) (8) 2.13.35 (8) 30.26	2.13.35
⑨法政大	大島 史也(3) (9) 24.03	野田 晶斗(2) (8) 40.45 (8) 16.42	小泉 樹(4) (10) 1.05.37 (6) 24.52	武田 和馬(4) (7) 1.23.35 (5) 17.58	矢原 倅瑛(3) (7) 1.42.33 (8) 18.58	宮岡 幸大(2) (9) 2.13.41 (10) 31.08	2.13.41
⑩大東文化大	入濱 輝大(3) (5) 23.54	大濱 逞真(1) (4) 40.14 (3) 16.20	K.エヴァンス(1) (7) 1.05.32 (12) 25.18	小田 恭平(4) (10) 1.24.57 (15) 19.25	中澤 真大(1) (10) 1.43.49 (7) 18.52	西川 千青(4) (10) 2.13.57 (5) 30.08	2.13.57
⑪東洋大	緒方滯那斗(3) (7) 23.56	濱中 尊(2) (10) 40.57 (11) 17.01	網本 佳悟(3) (12) 1.06.40 (13) 25.43	迎 暖人(1) (11) 1.24.58 (10) 18.18	西村 真周(3) (11) 1.44.33 (12) 19.35	宮崎 優(1) (11) 2.15.45 (11) 31.12	2.15.45
⑫京都産業大	中村 光稀(4) (8) 24.02	粟井 駿平(4) (9) 40.46 (9) 16.44	小嶋郁依斗(4) (8) 1.05.32 (5) 24.46	大久保颯汰(4) (12) 1.25.04 (17) 19.32	藤田 大輝(2) (12) 1.44.51 (13) 19.47	桑田 大樹(3) (12) 2.17.07 (17) 32.16	2.17.07
⑬北信越学連選抜	中戸 元貴(3) (新潟大) (17) 24.32	片岡 晴哉(1) (信州大) (15) 41.46 (15) 17.14	松林 直亮(M1) (信州大) (13) 1.06.58 (10) 25.12	渡部遼太郎(4) (新潟医療福祉大) (13) 1.26.18 (13) 19.20	三林 明弥(M1) (信州大) (13) 1.46.11 (14) 19.53	渡邊 真大(4) (新潟大) (13) 2.18.09 (14) 31.58	2.18.09
⑭北海道学連選抜	西塚 璃純(3) (札幌学院大) (16) 24.31	渡邊 隼翼(4) (札幌学院大) (14) 41.39 (12) 17.08	M.ディラング(3) (星槎道都大) (15) 1.07.43 (14) 26.04	栗田 紳冴(2) (札幌学院大) (15) 1.27.05 (14) 19.22	浦田 陽聖(1) (札幌学院大) (15) 1.47.22 (19) 20.17	伊藤 徹(3) (札幌学院大) (14) 2.18.39 (12) 31.17	2.18.39
⑮名古屋大	河崎 憲祐(M1) (13) 24.14	阿部 祥典(4) (13) 41.25 (14) 17.11	吉原 諒(4) (14) 1.07.39 (15) 26.14	加藤 太一(3) (14) 1.26.44 (12) 19.05	浅野 稜太(3) (14) 1.46.55 (17) 20.11	小川 海里(4) (15) 2.18.53 (14) 31.58	2.18.53
⑯関西大	谷村 恒晟(3) (15) 24.26	岡村 和真(2) (16) 42.08 (16) 17.42	坂東 壮琉(4) (16) 1.08.30 (16) 26.22	平野 圭人(2) (16) 1.27.19 (11) 18.49	大槻 涼人(2) (16) 1.47.24 (16) 20.05	秋山翔太朗(3) (16) 2.19.33 (16) 32.09	2.19.33
⑰岡山大	石鍋 颯一(4) (18) 24.47	日名子泰明(2) (19) 43.23 (19) 18.36	木戸 颯(2) (19) 1.10.06 (17) 26.43	岩崎 亮太(5) (19) 1.29.59 (19) 19.53	赤澤 京弥(3) (18) 1.49.14 (10) 19.15	旭 隼佑(M2) (17) 2.21.01 (13) 31.47	2.21.01
⑱鹿屋体育大	大園倫太郎(4) (20) 25.08	東 純大(2) (18) 42.52 (17) 17.44	内田 大樹(4) (18) 1.09.36 (18) 26.44	山口 大貴(3) (17) 1.29.10 (18) 19.34	兵藤 颯太(2) (17) 1.49.05 (15) 19.55	中原 敬輝(M1) (18) 2.21.26 (18) 32.21	2.21.26
⑲広島大	大森 勇輝(M1) (14) 24.25	菊永 翔太(1) (17) 42.20 (18) 17.55	南 凱士(3) (17) 1.09.12 (19) 26.52	橋井 佑空(2) (18) 1.29.31 (21) 20.19	遠藤浩太郎(2) (19) 1.50.55 (21) 21.24	伊藤 信雄(M2) (19) 2.23.33 (20) 32.38	2.23.33
⑳広島経済大	東 秀太(3) (19) 25.02	小川 晴也(3) (20) 44.31 (21) 19.29	藤井 奏汰(2) (20) 1.11.42 (20) 27.11	瀬尾 大和(1) (20) 1.31.49 (20) 20.07	大濱 遥喜(1) (20) 1.52.00 (17) 20.11	板谷 和磨(3) (20) 2.25.20 (21) 33.20	2.25.20
㉑東北学連選抜	吉田 奏斗(2) (東北学院大) (21) 26.23	伊藤 拓真(4) (山形大) (21) 45.15 (20) 18.52	齋藤 颯希(3) (東北学院大) (21) 1.13.00 (21) 27.45	萩川 暁(1) (東北学院大) (21) 1.32.25 (15) 19.25	近江 周(4) (山形大) (21) 1.52.48 (20) 20.23	向田 祐翔(4) (東北大) (21) 2.25.21 (19) 32.33	2.25.21
過去最高記録	K.ジユグナ (第一工業大) 22.30(09年)	佐藤 圭汰 (駒澤大) 15.27(22年)	P.ムルワ (創価大) 23.36(22年)	神林 勇太 (青山学院大) 17.24(19年)	安藤 悠哉 (青山学院大) 17.43(16年)	G.ダニエル (日本大) 28.17(09年)	駒澤大 2.07.51 (2023年)

【大会報告】

第42回全日本大学女子駅伝対校選手権大会

常任幹事 村上 奈穂

1. 大会名：第42回全日本大学女子駅伝対校選手権大会
2. 期 日：2024年10月27日(日)
3. 場 所：宮城・仙台市
弘進ゴムアスリートパーク仙台
4. エントリー数：25校・東北学連選抜チーム(OP)
計26チーム

5. 大会総括

2024年10月27日(日)に「杜の都」としてお馴染みの宮城県仙台市にて第42回全日本大学女子駅伝対校選手権大会が開催されました。前回大会の上位8校、各地区学連の代表14校、チーム内の5000m上位6名の記録によって選出された3校、オープン参加の東北学連選抜を加えた計26チームが各校の誇りを胸に仙台の地を走り抜けました。

今大会、絶対的女王として君臨していた名城大学の8連覇に待ったをかけたのは、9大会ぶり11回目の優勝を果たした立命館大学でした。また、帝京科学大学が初出場を果たし、東北福祉大学が大学歴代最高順位で入賞するなど、近年盛り上がりを見せる女子駅伝界を象徴するかのような多くの見どころがあるレースとなりました。

1区では、この区間5000m日本人トップの自己ベストを持つ名城大学の米澤奈々香選手が5km地点を前に上位集団から遅れを取り、思わぬ展開となりました。先頭では大東文化大学の野田真理耶選手、立命館大学の太田咲雪選手、大阪学院大学の永長里緒選手による区間新記録ペースでの激しい争いが繰り広げられました。残り200mで野田選手が仕掛け、それに太田選手が反応してスパート合戦となり、野田選手が抜け出して見事に区間賞を獲得しました。

2区では2024年夏にU20世界選手権5000mで6位入賞を果たした立命館大学の山本祐未選手が、1年生ながら区間新記録の走りでチームを首位に押し上げました。3区でも同様に立命館大学主将の村松灯選手が区間新記録となる圧巻の走りで、次の区間へ襷をつなぎました。

立命館大学が勢いを見せる展開が続きましたが、

4区では大東文化大学の蔦野萌々香選手、5区でも同大学のサラ・ワンジル選手が区間賞の走りで城西大学を抜いて2位に浮上し、立命館大学に狙いを定めます。

しかし、最終6区を任された立命館大学の土屋舞琴選手は追従を許さず区間賞の走りを見せてフィニッシュし、長年の悲願であった女王奪還を果たしました。また、この記録は大会新記録でした。

大東文化大学も大会新記録の快走を見せましたが、惜しくも10回目の2位となりました。城西大学は20年ぶりの3位入賞を果たし、長年女王に君臨していた名城大学は4位という結果になりました。しかし、アンカーを務めた谷本七星選手が区間2位の走りで主将としての意地を見せ、12月に開催する全日本大学女子駅伝選抜駅伝競走へつながる結果となりました。また、東北福祉大学が大学歴代最高順位を更新する5位でフィニッシュしました。以下、大阪学院大学、拓殖大学、筑波大学と続きました。

本大会の上位12校は、2024年12月30日(土)に富士宮市～富士市にて開催される2024全日本大学女子選抜駅伝競走の出場権を獲得しました。

今大会を無事に開催することができましたのも、主催の読売新聞社、共催の仙台市、特別協賛のスタートグループ、ご協賛いただいている関係各社、運営協力の東北学生陸上競技連盟、宮城陸上競技協会、仙台市スポーツ振興事業団をはじめとする関係各位のご支援、ご協力があったることと、深く感謝しております。2025年以降も出場選手、運営側、観客の方々をはじめ、関わる皆様に愛される大会を作っていけるよう、精進してまいりたいと思います。今後ともご支援、ご協力のほどよろしくお願いいたします。



2時間3分03秒の大会新で9年ぶり女王の座奪還を果たした立命館大学。写真はアンカーの土屋舞琴

7 第42回全日本大学女子駅伝 ©STARTS スターツ



最多10度の優勝を誇る名門が復活を示す継走。2区のルーキー・山本柚未(右)、3区の主将・村松灯の連続区間新で抜け出し、以降は一度もトップの座を譲らなかった



2年連続10度目の2位となった大東文化大学。1区トップから3区終了時点で立命大に1分12秒差をつけられたが、4区の髙野明々香(左)、5区のサラ・ワンジルの連続区間賞で猛追し、悲願の初Vにあと一步と迫った

7連覇中だった女王・名城大学は1区で9位と出遅れ、その後も追いつけ届かず。アンカーの主将・谷本七星が2人抜きと意地をみせたが4位でのフィニッシュとなった



城西大学が20年ぶりのトップスリー入りとなる3位に食い込む。写真はアンカーの高橋葵



前回初の8位入賞でシード校となった東北福祉大学がそれを上回る5位に躍進した。写真は5区の村山愛美沙



11年連続シードとなる6位に入った大阪学院大学。写真は5区・依田来巳(左)から6区・千葉妃華の中継



7位の拓殖大学は2年ぶりシード復活。4区の門脇奈穂(左)、5区の不破聖衣来が集大成の力走を見せた



筑波大学が12年ぶりシード獲得となる8位。アンカー・本庄悠紀奈が9位から1人をかわす殊勲のフィニッシュ



第42回全日本大学女子駅伝対校選手権大会 成績

上段=総合成績
下段=区間成績
●=区間新、大会新

チーム名	1区 (6.6km)	2区 (4.0km)	3区 (5.8km)	4区 (4.8km)	5区 (9.2km)	6区 (7.6km)	総合成績 (38.0km)
①立命館大	太田 咲雪(2) (2) 21.13 (2) ●21.13	山本 翔太(1) (1) 33.54 (1) ●12.41	村松 灯(4) (1) 52.39 (1) ●18.45	池田 悠音(1) (1) 1.08.32 (3) 15.53	中地こころ(4) (1) 1.38.05 (2) 29.33	土屋 舞琴(3) (1) 2.03.03 (1) 24.58	●2.03.03
②大東文化大	野田真理耶(2) (1) 21.11 (1) ●21.11	相場 茉奈(2) (2) 34.14 (3) 13.03	川瀬 真由(3) (3) 53.51 (6) 19.37	薦野萌々香(2) (3) 1.09.33 (1) 15.42	S.ワンジル(2) (2) 1.38.24 (1) 28.51	平尾 暁絵(2) (2) 2.04.06 (5) 25.42	●2.04.06
③城西大	本澤 美桜(1) (5) 21.31 (5) 21.31	鈴木 優菜(2) (3) 34.28 (2) 12.57	沖田 梨花(1) (2) 53.43 (2) 19.15	石川 苺(2) (2) 1.09.28 (2) 15.45	金子 陽向(3) (3) 1.40.06 (9) 30.38	高橋 葵(3) (3) 2.05.41 (4) 25.35	2.05.41
④名城大	米澤奈々香(3) (9) 21.55 (9) 21.55	上野 寧々(3) (9) 35.18 (10) 13.23	石松愛朱加(3) (7) 54.36 (3) 19.18	瀬木 彩花(2) (5) 1.10.33 (4) 15.57	原田 紗希(3) (6) 1.40.55 (8) 30.22	谷本 七星(4) (4) 2.06.02 (2) 25.07	2.06.02
⑤東北福祉大	佐々木菜月(2) (4) 21.31 (4) 21.31	早坂 優(1) (4) 34.37 (4) 13.06	中野 芽衣(2) (4) 54.15 (7) 19.38	村上 果蓮(1) (6) 1.10.33 (10) 16.18	村山愛美沙(2) (4) 1.40.16 (3) 29.43	小林日香莉(2) (5) 2.06.23 (10) 26.07	2.06.23
⑥大阪学院大	永長 里緒(4) (3) 21.16 (3) ●21.16	山下 彩菜(3) (5) 34.43 (11) 13.27	小林舞妃留(4) (6) 54.30 (11) 19.47	佐内 瑞希(1) (7) 1.10.44 (8) 16.14	依田 来巳(4) (7) 1.41.00 (6) 30.16	千葉 妃華(2) (6) 2.06.43 (6) 25.43	2.06.43
⑦拓殖大	三宅 優姫(1) (10) 21.57 (10) 21.57	岩崎麻知子(2) (8) 35.09 (7) 13.12	新井 沙希(3) (5) 54.28 (4) 19.19	門脇 奈穂(4) (4) 1.10.27 (6) 15.59	不破聖衣来(4) (5) 1.40.48 (7) 30.21	位田 明優(1) (7) 2.06.48 (7) 26.00	2.06.48
⑧筑波大	鈴木 美海(1) (12) 22.13 (13) 22.13	田中 柚良(1) (10) 35.20 (5) 13.07	小松 夕夏(3) (9) 54.59 (8) 19.39	今 美里(2) (9) 1.11.16 (9) 16.17	白川 朝陽(1) (9) 1.41.58 (10) 30.42	本庄悠紀奈(M2) (8) 2.08.10 (12) 26.12	2.08.10
⑨日本体育大	齋藤 みう(4) (23) 23.49 (24) 23.49	関本 遥(1) (22) 37.26 (17) 13.37	嶋田 桃子(4) (18) 56.56 (5) 19.30	柳井 桜子(3) (14) 1.12.54 (5) 15.58	山崎 りさ(4) (11) 1.42.54 (4) 30.00	尾方 唯莉(4) (9) 2.08.22 (3) 25.28	2.08.22
⑩中央大	武田 胡春(1) (7) 21.54 (7) 21.54	木下 紗那(3) (7) 35.08 (8) 13.14	南 日向(3) (10) 55.20 (15) 20.12	大塚 明実(4) (10) 1.11.59 (14) 16.39	浜野 光(3) (10) 1.42.50 (12) 30.51	並木 美乃(3) (10) 2.08.53 (8) 26.03	2.08.53
⑪順天堂大	小暮 真緒(4) (6) 21.37 (6) 21.37	神林 由乃(3) (6) 35.05 (12) 13.28	石上 菜理(2) (8) 54.51 (10) 19.46	山際 夏芽(4) (8) 1.10.53 (7) 16.02	田島 愛理(2) (8) 1.41.37 (11) 30.44	境 真衣(3) (11) 2.09.10 (18) 27.33	2.09.10
⑫帝京科学大	山田 依菜(1) (11) 22.03 (11) 22.03	村上 りの(1) (13) 35.39 (16) 13.36	渡辺 笑夏(3) (12) 55.54 (16) 20.15	山口あずさ(4) (13) 1.12.29 (13) 16.35	粕谷 雫(1) (13) 1.43.36 (13) 31.07	中村 愛莉(3) (12) 2.10.04 (13) 26.28	2.10.04
⑬兵庫大	長岡 あず(4) (8) 21.55 (8) 21.55	樽本 知夏(1) (11) 35.26 (13) 13.31	白井かすみ(4) (11) 55.23 (12) 19.57	尾中 花和(3) (11) 1.12.19 (19) 16.56	大西 文香(2) (15) 1.44.12 (18) 31.53	福永 愛佳(4) (13) 2.10.15 (8) 26.03	2.10.15
⑭関西大	石松 空(4) (15) 22.34 (16) 22.34	大西 友菜(1) (16) 36.27 (19) 13.53	有田茉合香(3) (15) 56.24 (12) 19.57	伐栗 夢七(4) (15) 1.12.57 (12) 16.33	前田 彩花(2) (12) 1.43.09 (5) 30.12	岩本 風音(3) (14) 2.10.25 (17) 27.16	2.10.25
⑮玉川大	満谷 咲子(4) (17) 22.46 (18) 22.46	藤田 仁乃(4) (15) 36.05 (9) 13.19	大木 志桜(1) (13) 56.02 (12) 19.57	佐藤 彩乃(2) (12) 1.12.21 (11) 16.19	金原 千尋(4) (14) 1.43.44 (16) 31.23	藤村 優季(4) (15) 2.10.30 (14) 26.46	2.10.30
⑯東洋大	萩原 結(4) (14) 22.29 (15) 22.29	篠塚 美来(3) (12) 35.38 (6) 13.09	寺松 步穂(3) (14) 56.15 (19) 20.37	伊東 夕波(3) (16) 1.13.05 (17) 16.50	中才 茉子(3) (16) 1.44.25 (15) 31.20	住野 友理(2) (16) 2.10.35 (11) 26.10	2.10.35
⑰中京学院大	杉浦さくら(2) (18) 22.47 (19) 22.47	具志堅佑奈(4) (18) 36.48 (20) 14.01	中村 柚音(3) (16) 56.28 (9) 19.40	渡邊 葵(3) (17) 1.13.15 (15) 16.47	金子 藍(4) (17) 1.45.22 (21) 32.07	松本 実咲(2) (17) 2.12.30 (16) 27.08	2.12.30
⑱京都産業大	今 絵里南(2) (16) 22.42 (17) 22.42	坂本有理佳(2) (20) 37.08 (23) 14.26	永吉 悠倭(2) (22) 57.52 (21) 20.44	飯田有里彩(1) (21) 1.14.55 (20) 17.03	政田 愛梨(4) (20) 1.46.19 (17) 31.24	岡田 瀬奈(1) (18) 2.13.12 (15) 26.53	2.13.12
⑲関西外国語大	後田 乃愛(1) (22) 23.12 (23) 23.12	矢吹 美宙(2) (19) 36.59 (18) 13.47	札幌 美穂(3) (19) 57.24 (17) 20.25	林 那優(2) (19) 1.14.17 (18) 16.53	三輪南菜子(4) (18) 1.45.35 (14) 31.18	寺木みのり(1) (19) 2.13.14 (20) 27.39	2.13.14
⑳福岡大	宮原なな佳(3) (13) 22.22 (14) 22.22	前田穂乃香(2) (14) 35.55 (14) 13.33	谷門 光莉(1) (17) 56.37 (20) 20.42	坂元 葵衣(3) (18) 1.13.25 (16) 16.48	末永 恋菜(4) (19) 1.46.09 (22) 32.44	戸倉 瑛菜(4) (20) 2.13.57 (21) 27.48	2.13.57
㉑東京農業大	幸田 萌(4) (19) 22.56 (20) 22.56	須山 沙奈(1) (21) 37.09 (22) 14.13	益塚 稀(1) (21) 57.42 (18) 20.33	高橋 美月(1) (22) 1.15.22 (22) 17.40	藤城さくら(2) (21) 1.47.20 (20) 31.58	今井 亜実(1) (21) 2.15.16 (22) 27.56	2.15.16
㉒環太平洋大	小林 舞香(10) (21) 23.10 (21) 23.10	江藤 咲(4) (17) 36.45 (15) 13.35	近江 香穂(3) (20) 57.38 (22) 20.53	富田奈乃香(3) (20) 1.14.44 (21) 17.06	樋口 美桜(1) (22) 1.47.31 (23) 32.47	石田 紗愛(3) (22) 2.15.40 (24) 28.09	2.15.40
㉓新潟医療福祉大	佐藤 瑠捺(1) (20) 23.05 (21) 23.05	羽入田暖愛(1) (23) 37.51 (24) 14.46	風呂美祐羽(1) (23) 58.54 (23) 21.03	福原 陽(2) (23) 1.16.39 (23) 17.45	清水 杏夏(3) (23) 1.48.33 (19) 31.54	二村夕希子(3) (23) 2.16.37 (23) 28.04	2.16.37
㉔仙台大	伊東舞莉彩(2) (25) 24.35 (26) 24.35	門脇くるみ(4) (25) 39.28 (25) 14.53	栗原なのは(1) (24) 1.01.17 (24) 21.49	高木 環(3) (24) 1.19.29 (24) 18.12	木下 柚葵(2) (24) 1.54.12 (25) 34.43	森谷 乙葉(2) (19) 27.34	2.21.46
㉕札幌国際大	石川 由乃(4) (24) 24.18 (25) 24.18	日向 結菜(1) (24) 39.13 (26) 14.55	松本 夢来(2) (25) 1.02.42 (26) 23.29	三浦 碧海(1) (25) 1.22.25 (26) 19.43	佐藤わかな(2) (25) 1.56.07 (24) 33.42	木満谷 心(2) (25) 2.24.54 (25) 28.47	2.24.54
東北学連選抜 (オープン)	E.ワンジル(1) (石巻専修大) (12) 22.10 (12) 22.10	小野寺美麗(2) (石巻専修大) (21) 36.19 (21) 14.09	大友万杏子(4) (福島大) (25) 59.07 (25) 22.48	松野 海白(3) (東北学院大) (25) 1.17.43 (25) 18.36	船山 明莉(2) (山形県立保健医療大) (26) 1.53.21 (26) 35.38	寺嶋 悠麻(2) (石巻専修大) (26) 2.22.16 (26) 28.55	2.22.16
過去最高記録	村松 灯 (立命館大) 21.21 (23年)	太田 咲雪 (立命館大) 12.55 (23年)	石松愛朱加 (名城大) 18.52 (23年)	谷本 七星 (名城大) 15.14 (22年)	不破聖衣来 (拓殖大) 28.00 (21年)	谷本 七星 (名城大) 24.46 (23年)	名城大 2.04.29 (2023年)

【大会報告】

秩父宮賜杯第56回全日本大学駅伝対校選手権大会

常任幹事 河本 賀帆

1. 大会名：秩父宮賜杯第56回全日本大学駅伝対校選手権大会
2. 大会期日：2024年11月3日（日）
3. 場所：愛知県・熱田神宮西門前～三重県・伊勢神宮内宮宇治橋前
4. エントリー数：25校・日本学連選抜チーム（OP）・東海学連選抜チーム（OP）計27チーム

5. 大会総括

秩父宮賜杯第56回全日本大学駅伝対校選手権大会が11月3日（日）に熱田神宮西門前から伊勢神宮内宮宇治橋前までの全8区間106.8kmで行われました。大会当日は前日の豪雨から一転して素晴らしい晴天に恵まれ、全27チームが力強く伊勢路を駆け抜きました。

1区では9km付近まで牽制が続き、勝負は残り500mに持ち越されました。大東文化大学の大濱逞真選手、青山学院大学の野村昭夢選手、日本体育大学の平島龍斗選手が飛び出し、集団を引き離す展開になるなか、ラスト200mで平島選手が下り坂を利用して抜け出し、区間賞を獲得しました。

前半の重要区間となる2区では、各校のエースや留学生の実力が拮抗するなか、青山学院大学の鶴川正也選手が創価大学の吉田響選手とのデッドヒートを制してトップで襷を渡しました。3区では青山学院大学が首位を守り、城西大学のヴィクター・キムタイ選手が2年連続区間賞となる走りで5人を抜き、城西大学を一気にシード権内へ押し上げました。

4区では先頭を走る青山学院大学の黒田朝日選手が後続との距離を広げ、区間新記録の走りでチームに勢いをつけました。

しかし、5区では國學院大学の野中恒亨選手が1位と1分27秒差で受けた襷を41秒差にまで詰め、出雲駅伝に続いて区間賞を獲得しました。続く6区でも國學院大学の山本歩夢選手が前を走る青山学院大学の白石光星選手を猛追し、従来の区間記録を14秒更新する区間新記録で区間賞を獲得しました。

7区では首位で襷を受けた青山学院大学の太田蒼生選手がハイペースで入り、それを國學院大学の平

林清澄選手が追う形となりました。平林選手が一時は太田選手に追いついたものの、太田選手が見事な快走を見せ、首位をキープして8区へと突入しました。また、5位でタスキを受けた駒澤大学の篠原倅太朗選手が3位に浮上する走りで、先頭争いを繰り広げた2人を上回り区間賞を獲得しました。

そして最終8区では、國學院大学の上原琉翔選手が青山学院大学の塩出翔太選手を捕らえて並走を始めると、9.5km付近で突き放してそのままトップを守り抜き、フィニッシュテープを切りました。区間賞は日本人区間最高タイムに迫り、チームを2位に押し上げる走りを見せた駒澤大学の山川拓馬選手が獲得しました。

國學院大学は初の優勝を果たし、出雲駅伝に続き学生駅伝2冠を達成しました。また、大会MVPには自身初となる区間賞を獲得した山本歩夢選手が選出されました。

年々注目が高まっているこの全日本大学駅伝から東京世界選手権、ワールドユニバーシティゲームズ、アジア選手権に向けて世界に羽ばたく選手が現れることに期待しています。

今大会が無事に開催できたのはご支援、ご協力いただいている多くの方々によるものです。この大会がさらに発展し、陸上界の盛り上がりにつながるよう、今後ともよろしくお願いたします。



初優勝のフィニッシュテープを切った國學院大学のアンカー・上原琉翔



終盤に強さを発揮して出雲駅伝に続く学生駅伝2冠を手にした国学院大学。6区区間新で逆転への流れを確固たるものにした山本歩夢がMVPに輝く



4連覇中の王者・駒澤大学は2位で史上初の5連覇はならず。だが、2区終了時でトップと2分23秒差の16位の出遅れから挽回した。写真は日本人歴代2位の激走を見せたアンカー・山川拓馬



3位だった青山学院大学は2区から首位を快走するなど見せ場を作る。7区では太田蒼生が国学院大学の主将・平林清澄と歴史的名勝負を繰り広げながら、先頭の座を譲らなかった

4位の創価大学は初出場だった2年前から5位、6位と続けてきた連続シードを過去最高位で継続。区間2位と好走したアンカー・野沢悠真が「4」を示して笑顔のフィニッシュ



1区18位スタートから盛り返し、2年ぶりのシード復帰を果たした早稲田大学。2区の山口智規が14人抜きを力走でチームを鼓舞



初の伊勢路挑戦だった立教大学がいきなり初シード獲得の7位に食い込む。写真はアンカーの主将・安藤圭佑



2大会連続11回目の出場、初の連続シードとなる6位を占めた城西大学。3区のウィクター・キムタイ(左)が2年連続区間賞で10位から5位に押し上げ、4区の斎藤将也が2位に浮上するなど中盤で見せ場を作る



2020年の7位以来の入賞となる8位を占め、4年ぶりのシード権を手にした帝京大学。写真は2区で区間4位と奮起し、9位から4位に押し上げた主将・山中博生(左)から3区・尾崎仁哉への中継



1区は日本体育大学・平島龍斗が区間賞を獲得。ラスト勝負で一気に抜け出し、28分18秒で中継した

秩父宮賜杯第56回全日本大学駅伝対校選手権大会 成績

上段=総合成績
下段=区間成績
●=区間新

チーム名	1区 (9.5km)	2区 (11.1km)	3区 (11.9km)	4区 (11.8km)	5区 (12.4km)	6区 (12.8km)	7区 (17.6km)	8区 (19.7km)	総合成績 (106.8km)
①國學院大	嘉数 純平(3) (2) 28.20 (2) 28.20	青木 瑠郁(3) (6) 1.00.19 (7) 31.59	辻原 輝(2) (3) 1.34.18 (3) 33.59	高山 豪起(3) (2) 2.08.13 (4) 33.55	野中 恒亨(2) (2) 2.43.48 (1) 35.35	山本 歩夢(4) (2) 3.20.35 (2) ●36.47	平林 清澄(4) (2) 4.10.42 (2) 50.07	上原 琉翔(3) (1) 5.09.56 (9) 59.14	5.09.56
②駒澤大	島子 公佑(2) (13) 28.25 (14) 28.25	桑田 駿介(1) (16) 1.01.48 (17) 33.23	伊藤 蒼唯(3) (8) 1.35.27 (2) 33.39	谷中 晴(1) (5) 2.09.11 (3) 33.44	村上 響(2) (5) 2.45.39 (5) 36.28	安原 海晴(2) (5) 3.23.18 (3) 37.39	篠原倅大朝(4) (3) 4.13.15 (1) 49.57	山川 拓馬(3) (2) 5.10.24 (1) 57.09	5.10.24
③青山学院大	野村 昭夢(4) (4) 28.21 (4) 28.21	鶴川 正也(4) (1) 31.04 (5) 34.18	折田 壮太(1) (1) 1.33.43 (1) ●33.03	黒田 朝日(3) (1) 2.06.46 (4) 33.03	田中 悠登(4) (1) 2.43.07 (4) 36.21	白石 光星(4) (1) 3.20.31 (2) 37.24	太田 蒼生(4) (1) 4.10.38 (2) 50.07	塩出 翔太(3) (3) 5.10.41 (15) 1.00.03	5.10.41
④創価大	小暮 栄輝(4) (3) 28.20 (3) 28.20	吉田 響(4) (2) 29.25 (2) 31.05	石丸 惇那(3) (2) 1.34.17 (10) 34.52	山口 翔輝(1) (4) 2.08.32 (8) 34.15	S.ムチーニ(2) (3) 2.44.13 (2) 35.41	黒木 陽向(3) (3) 3.22.33 (9) 38.20	吉田 凌(4) (4) 4.15.29 (12) 52.56	野沢 悠真(3) (4) 5.13.17 (2) 57.48	5.13.17
⑤早稲田大	間瀬田純平(3) (18) 28.30 (19) 28.30	山口 智規(3) (5) 1.00.18 (5) 31.48	藤本進次郎(3) (10) 1.35.50 (15) 35.32	伊藤 大志(4) (7) 2.09.54 (3) 34.04	山口 竣平(1) (6) 2.46.02 (6) 36.08	伊福 陽太(4) (6) 3.24.23 (10) 38.21	長屋 匡起(2) (5) 4.16.12 (6) 51.49	工藤 慎作(2) (5) 5.14.24 (3) 58.12	5.14.24
⑥城西大	鈴木 健真(3) (7) 28.23 (7) 28.23	柴田 侑(2) (10) 1.00.59 (11) 32.36	V.キムタイ(3) (5) 1.34.21 (1) 33.22	斎藤 将也(3) (2) 2.08.02 (2) 33.41	林 晃耀(4) (4) 2.44.55 (7) 36.53	桜井 優我(3) (4) 3.23.17 (11) 38.22	久保出雄太(4) (5) 4.16.02 (11) 52.45	平林 樹(4) (6) 5.14.57 (5) 58.55	5.14.57
⑦立教大	吉屋 佑晟(3) (6) 28.22 (6) 28.22	國安 広人(3) (14) 1.01.35 (15) 33.13	林 虎大朝(4) (14) 1.36.41 (12) 35.06	稲塚 大祐(4) (2) 2.10.51 (7) 34.10	小倉 史也(3) (12) 2.48.09 (10) 37.18	山口 史朗(4) (11) 3.26.00 (5) 37.51	馬場 賢人(3) (7) 4.17.11 (4) 51.11	安藤 圭佑(4) (7) 5.16.21 (8) 59.10	5.16.21
⑧帝京大	島田 晃希(3) (9) 28.23 (9) 28.23	山中 博生(4) (4) 1.00.07 (4) 31.44	尾崎 仁哉(3) (7) 1.35.14 (13) 35.07	廣田 陸(2) (9) 2.10.06 (11) 34.52	柴戸 遼太(3) (11) 2.47.38 (11) 37.32	楠岡 由浩(2) (9) 3.25.26 (4) 37.48	福田 翔(4) (8) 4.17.36 (8) 52.10	小林 大晟(4) (8) 5.16.24 (4) 58.48	5.16.24
⑨東京国際大	木村 海斗(4) (16) 28.29 (17) 28.29	A.ベット(2) (3) 1.00.06 (3) 31.37	佐藤 榛紀(4) (4) 1.34.19 (4) 34.13	中山 拓真(3) (6) 2.09.36 (14) 35.17	益田 郁也(4) (10) 2.47.31 (15) 37.55	大村 良紀(3) (8) 3.25.50 (8) 38.19	大林 洗己(4) (9) 4.17.47 (7) 51.57	川内 琉生(3) (9) 5.17.46 (13) 59.59	5.17.46
⑩日本体育大	平島 龍斗(3) (1) 28.18 (1) 28.18	山崎 丞(3) (8) 1.00.32 (8) 32.14	田島 駿介(3) (9) 1.35.32 (11) 35.00	分須 尊紀(4) (10) 2.10.16 (10) 34.44	二村昇太郎(3) (9) 2.47.13 (8) 36.57	山口 廉(4) (7) 3.25.17 (13) 38.04	富永 椋太(4) (10) 4.18.23 (13) 53.06	浦上 和樹(3) (10) 5.17.52 (10) 59.29	5.17.52
⑪大東文化大	大濱 暹真(1) (5) 28.21 (5) 28.21	西川 千青(4) (9) 1.00.54 (10) 32.33	中澤 真大(1) (11) 1.36.11 (14) 35.17	入濱 輝大(3) (11) 2.10.20 (6) 34.09	榎方 一葉(2) (7) 2.46.52 (6) 36.32	P.ワンジル(4) (12) 3.26.30 (16) 39.38	大谷 章紘(4) (12) 4.19.06 (9) 52.36	西代 雄豪(4) (11) 5.18.08 (6) 59.02	5.18.08
⑫中央大	溜池 一太(3) (19) 28.31 (20) 28.31	岡田 開成(1) (7) 1.00.24 (6) 31.53	本間 颯(2) (6) 1.34.55 (6) 34.31	浦田 優斗(4) (8) 2.09.58 (13) 35.03	東海林宏一(4) (8) 2.47.08 (9) 37.10	佐藤 大介(1) (8) 3.25.19 (7) 38.11	吉居 駿基(3) (11) 4.18.41 (14) 53.22	阿部 陽樹(4) (12) 5.19.49 (18) 1.01.08	5.19.49
⑬東洋大	小林 亮太(4) (8) 28.23 (8) 28.23	吉田 周(4) (13) 1.01.33 (14) 33.10	梅崎 蓮(4) (12) 1.36.12 (7) 34.39	濱中 尊(2) (13) 2.11.07 (12) 34.55	久保田琉月(2) (13) 2.48.48 (13) 37.41	石田 洗介(4) (14) 3.29.09 (21) 40.21	緒方滯那斗(3) (13) 4.21.01 (6) 51.52	岸本遼太郎(3) (13) 5.20.08 (7) 59.07	5.20.08
⑭神奈川大	大岩 蓮(2) (12) 28.25 (13) 28.25	酒井 健成(3) (15) 1.01.43 (16) 33.18	宮本 陽叶(3) (13) 1.36.29 (8) 34.46	近藤 大智(2) (14) 2.11.11 (19) 34.42	中西 良介(4) (14) 2.49.41 (17) 38.30	滝本 朗史(2) (13) 3.28.44 (13) 39.03	西坂 昂也(3) (14) 4.22.10 (15) 53.26	志食 隆希(3) (14) 5.22.42 (16) 1.00.32	5.22.42
⑮東海大	草刈 恭弓(3) (11) 28.24 (11) 28.24	花岡 寿哉(3) (11) 1.01.03 (12) 32.39	梶谷 優斗(4) (15) 1.37.26 (17) 36.23	檜垣 蒼(1) (2) 1.13.34 (15) 36.08	水野 龍志(4) (15) 2.51.16 (14) 37.42	可児 悠貴(2) (15) 3.31.12 (19) 39.56	南坂 柚汰(2) (15) 4.23.50 (10) 52.38	竹割 真(3) (15) 5.23.43 (12) 59.53	5.23.43
⑯京都産業大	粟井 駿平(4) (14) 28.27 (15) 28.27	小嶋郁依斗(4) (12) 1.01.21 (13) 32.54	藤田 大輝(2) (17) 1.38.59 (25) 37.38	杉本 和己(4) (16) 2.14.43 (16) 35.44	山口 大督(4) (16) 2.52.39 (16) 37.56	大久保颯汰(4) (17) 3.33.30 (22) 40.51	栗田 大樹(3) (16) 4.28.58 (23) 55.28	中村 光稀(4) (16) 5.28.58 (14) 1.00.00	5.28.58
⑰皇學館大	藤川 創(4) (22) 29.21 (24) 29.21	毛利 昂太(4) (21) 1.04.13 (23) 34.52	新間 圭(2) (20) 1.40.44 (19) 36.31	田中 靖晃(3) (19) 2.17.01 (22) 36.17	浦瀬晃太郎(4) (20) 2.55.57 (19) 38.56	芝 晴裕(4) (19) 3.35.43 (17) 39.46	曾越 大成(4) (20) 4.30.54 (22) 55.11	岩島 昇汰(4) (17) 5.31.36 (17) 1.00.42	5.31.36
⑱大阪経済大	岩坂 蓮太(1) (17) 28.29 (18) 28.29	婦本 拓実(3) (18) 1.02.38 (20) 34.09	上田 寛太(1) (18) 1.39.18 (20) 36.40	新 博貴(3) (18) 2.14.55 (15) 35.37	京川 大真(2) (18) 2.54.02 (21) 39.07	内尾射光矢(1) (16) 3.33.19 (15) 39.17	山崎 真聖(3) (17) 4.29.13 (24) 55.54	佐藤 颯(4) (18) 5.32.53 (23) 1.03.40	5.32.53
⑲関西大	谷村 恒晟(3) (10) 28.23 (10) 28.23	井手 蒼人(2) (19) 1.03.13 (22) 34.50	平野 圭人(2) (19) 1.40.03 (20) 36.50	坂本 亘生(4) (20) 2.17.11 (23) 37.08	芝 秀介(3) (19) 2.55.51 (18) 38.40	英 唯明(4) (20) 3.35.51 (20) 40.00	秋山翔太郎(3) (19) 4.30.25 (18) 54.34	坂東 壮琉(4) (19) 5.33.52 (21) 1.03.27	5.33.52
⑳札幌学院大	西塚 璃純(3) (15) 28.28 (16) 28.28	渡邊 隼翼(4) (16) 1.02.25 (19) 33.57	山田 陽翔(3) (16) 1.38.55 (18) 36.30	伊藤 徹(3) (17) 2.14.54 (18) 35.59	佐藤魁良寸(4) (17) 2.54.00 (20) 39.06	浦田 陽聖(1) (18) 3.34.57 (24) 40.57	山崎 樹羅(4) (18) 4.29.48 (20) 54.51	栗田 紳牙(2) (20) 5.35.50 (27) 1.06.02	5.35.50
㉑鹿児島大	藤本悠太郎(3) (21) 28.59 (23) 28.59	鶴田 寛武(4) (20) 1.03.41 (21) 34.42	弓削 佑太(2) (21) 1.41.24 (26) 37.43	平野 皓大(4) (23) 2.18.40 (25) 37.16	水口 涉(3) (22) 2.58.20 (22) 39.40	梅橋 拓也(3) (21) 3.39.23 (25) 41.03	清藤 悠里(2) (21) 4.34.03 (19) 54.40	別府 明稔(4) (21) 5.37.24 (20) 1.03.21	5.37.24
㉒立命館大	柏木 優希(1) (20) 28.32 (21) 28.32	山崎 皓太(4) (24) 1.06.05 (27) 37.33	大森 駿斗(4) (23) 1.42.08 (16) 36.03	児玉 航洋(2) (22) 2.18.00 (17) 35.52	倉橋 慶(3) (22) 2.58.01 (25) 40.01	高田 智生(1) (21) 3.37.48 (18) 39.47	尾上 陽人(3) (22) 4.34.06 (25) 56.18	中田千太郎(4) (22) 5.38.18 (25) 1.04.12	5.38.18
㉓岡山大	岩崎 亮太(5) (23) 29.40 (25) 29.40	木戸 颯(2) (22) 1.04.35 (22) 34.55	旭 隼佑(2) (22) 1.41.34 (21) 36.59	石鍋 颯一(4) (21) 2.17.48 (24) 36.14	日名子泰明(2) (21) 2.57.39 (21) 39.51	米倉紘之介(2) (23) 3.40.29 (23) 42.50	赤澤 京弥(3) (23) 4.35.25 (21) 54.56	福永伸之介(3) (23) 5.40.11 (26) 1.04.46	5.40.11
㉔新潟大	松野 伊吹(4) (25) 30.03 (27) 3.03	横山昇太郎(2) (23) 1.05.34 (25) 35.31	高橋 惇央(4) (24) 1.43.02 (24) 37.28	金子 敦哉(3) (24) 2.20.27 (26) 37.25	谷端 良鷹(4) (24) 3.01.50 (26) 41.23	舟山 俊希(6) (24) 3.42.46 (24) 40.56	中戸 元貴(3) (24) 4.36.38 (16) 53.52	渡邊 真大(4) (24) 5.40.28 (24) 1.03.50	5.40.28
㉕東北大	千葉 航太(3) (24) 29.54 (26) 29.54	新田 友海(5) (25) 1.06.08 (26) 36.14	照内 優允(2) (25) 1.44.53 (27) 38.45	杉山 大輔(3) (25) 2.23.14 (27) 38.21	工藤 大介(2) (25) 3.05.44 (27) 42.30	深澤 昇悟(4) (25) 3.48.58 (27) 43.14	出田 義貴(1) (25) 4.53.45 (27) 1.04.47	向田 祐翔(4) (25) 5.57.12 (21) 1.03.27	5.57.12
日本学連選抜 (オープン)	山下 慶馬(2) (12) 28.25 (12) 28.25	片川 祐大(4) (2) 1.00.50 (9) 32.25	金子佑太郎(4) (2) 1.35.36 (8) 34.46	中尾 心哉(4) (19) 2.11.43 (19) 36.07	中村 晃斗(2) (12) 2.49.20 (12) 37.37	山本 涼介(3) (12) 3.27.51 (12) 38.31	南部 悠陽(2) (17) 4.21.47 (17) 53.56	松林 直亮(2) (11) 5.21.31 (11) 59.44	5.21.31
東海学連選抜 (オープン)	岩田 玄弥(2) (24) 28.43 (22) 28.43	中嶋 希(2) (2) 1.02.23 (21) 33.40	天野 佑哉(4) (2) 1.39.08 (21) 36.45	浅井 駿良(4) (2) 2.16.14 (23) 37.06	日比 健仁(2) (2) 2.55.57 (23) 39.43	河崎 憲祐(2) (3) 3.34.36 (13) 38.39	田中 海吏(4) (4) 4.30.58 (26) 56.22	木山敬士郎(3) (5) 5.32.20 (19) 1.01.22	5.32.20
過去最高記録	P.ワンジル (大東文化大) 26.58(22年)	佐藤 圭法 (駒澤大) 31.01(23年)	Y.ヴァンセント (東京国際大) 32.46(21年)	石原翔太郎 (東海大) 33.16(20年)	吉田 響 (創価大) 35.18(23年)	吉居 大和 (中央大) 37.01(22年)	田澤 廉 (駒澤大) 49.38(22年)	M. J. モグス (山梨学院大) 55.32(07年)	駒澤大 5.06.47 (2022年)

【大会報告】

2024全日本大学女子選抜駅伝競走

常任幹事 永田 里桜

1. 大会名：2024全日本大学女子選抜駅伝競走
2. 大会期日：2024年12月30日(月)
3. 場所：静岡県・富士市/富士宮市 富士山本宮浅間大社前～富士総合運動公園陸上競技場
4. エントリー数：22校・全日本大学選抜チーム・静岡県学生選抜チーム 計24チーム

5. 大会総括

令和6年12月30日(月)、2024年を締めくくる駅伝大会である2024年全日本大学女子選抜駅伝競走(2024富士山女子駅伝)が、静岡県の富士宮市・富士山本宮浅間大社前から富士市・富士総合運動公園陸上競技場までの7区間43.4kmで行われました。第42回全日本大学女子駅伝の上位12校、5000mのタイムから選出された10校に全日本大学選抜チームと静岡県学生選抜チームを加えた計24チームが今年度も日本一を決める熾烈な戦いを繰り広げました。

今大会で優勝すれば大会史上初の7連覇となる名城大学をはじめ、第42回全日本大学女子駅伝で優勝した立命館大学や同2位の大東文化大学など、例年以上の混戦が予想される中でレースがスタートしました。

1区では、先日行われたZevenheuvelenloop 15kmロードレース(2024/オランダ)で日本人トップの好成績を収めた全日本大学選抜の小川陽香選手(立教大学)が中盤から集団を抜け出し、区間タイ記録で区間賞を獲得。続く2区では日本体育大学の齋藤みう選手が区間賞を獲得し、チームをトップに押し上げました。また、後続では激しい順位変動が見られました。

平坦で最短区間の3区では立命館大学の森安桃風選手が大東文化大学をかわして2位に浮上すると、4区では同じく立命館大学の山本柚未選手が終盤に粘りのスパートを見せ、食い下がる日本体育大学と大東文化大学を突き放してトップに立ち、区間賞を獲得。13分54秒の区間新記録でした。

各大学のエースが集った最長区間の5区では、拓殖大学の不破聖衣来選手が6人抜きの快走で4位に浮上。区間賞は大東文化大学のサラ・ワンジル選手が獲得し、チームをトップに押し上げました。6区では、立



7年ぶりの優勝を果たした立命館大。アンカーの中地ところが歓喜のフィニッシュテープを切った

命館大学の福永楓花選手が区間新記録の走りで日本体育大学の嶋田桃子選手を振り切り、再び立命館大学がトップに立ちました。

高低差169mを駆け上がる最終7区では、立命館大学の中地ところ選手が後続を寄せつけない区間賞の走りで優勝のフィニッシュテープを切りました。2位は全日本大学女子駅伝に続き大東文化大学、激しい3位争いは3秒差で日本体育大学が拓殖大学を振り切りました。大会7連覇を狙った名城大学は8位という結果でした。

立命館大学は7区間のうち4区間で区間賞を獲得。大会記録を29秒更新する2時間21分09秒で7年ぶり6回目の優勝を果たし、全日本大学女子駅伝と合わせて、2冠を達成しました。

2024年の日本学連主催競技会は本大会をもって終了いたしました。2024年は元日から石川県能登半島沖の地震により大きな被害が出るなど非常に困難な年の幕開けとなりました。国内でのトラック&フィールドや駅伝大会に加え、パリ五輪をはじめとした国際大会でも、多くの好成績・名勝負が生まれた1年でした。

2025年もまた、向上と進展の信念に基づき、スポーツを通じて明るい未来を切り開いていけるよう、私たち一同尽力してまいります。引き続きご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



全日本との2冠を9年ぶりに達成した立命館大



全日本に続いて2位となった大東文化大。7区の平尾映絵が1つ順位を上げて競技場に到着した

前回2位だった日本体育大は3位フィニッシュ。2区の齋藤みう(右)がトップに躍り出ると、続く齋藤一乃も首位をキープした



過去最高順位の4位に食い込んだ拓殖大。5区・不破聖衣来(右から3人目)が順位を上げ、3位も見える継走だった



順天堂大が初入賞の5位と健闘を見せた

城西大は3区以降に順位を上げて6大会連続入賞の6位。写真は7区区間2位の石川莓



7位の大坂学院大は6区・永長里緒(左)、7区・千葉妃華らの粘りで入賞を確保



6連覇中の名城大は8位にとどまる。主将は谷本七星(左)から米澤奈々香へと継承。再浮上を誓う



全日本大学選抜1区の小川陽香(立教大)が区間賞。チームは14位だった

2024全日本大学選抜女子駅伝 成績

上段=通過タイム
下段=区間タイム
●=大会新、区間新

チーム名	1区 (4.1km)	2区 (6.8km)	3区 (3.3km)	4区 (4.4km)	5区 (10.5km)	6区 (6km)	7区 (8.3km)	総合成績 (43.4km)
①立命館大	太田 咲雪② (3) 12.57	村松 灯④ (3) 33.58 (3) 21.01	森安 桃風① (2) 44.11 (1) 10.13	山本 穂未① (1) 58.05 (1) ●13.54	土屋 舞琴③ (3) 1.32.57 (6) 34.52	福永 楓花④ (1) 1.52.09 (1) ●19.12	中地こころ④ (1) 2.21.09 (1) 29.00	●2.21.09
②大東文化大	相場 茉奈② (6) 12.58	野田真理那② (2) 33.58 (2) 21.00	川瀬 真由③ (3) 44.13 (2) 10.15	髙野萌々香② (3) 58.41 (6) 14.28	S.フンジル② (1) 1.32.26 (1) 33.45	四元 桃奈 (3) 1.52.58 (10) 20.32	平尾 暁絵② (2) 2.23.47 (5) 30.49	2.23.47
③日本体育大	柳井 桜子③ (9) 13.03	齋藤 みう④ (1) 33.49 (1) 20.46	齋藤 一乃① (1) 44.08 (3) 10.19	山崎 りさ④ (2) 58.12 (2) 14.04	尾方 唯莉④ (2) 1.32.52 (3) 34.40	嶋田 桃子④ (2) 1.52.15 (2) ●19.23	飯田 和代① (3) 2.24.02 (18) 31.47	2.24.02
④拓殖大	岩崎麻知子② (5) 12.58	三宅 優姫① (10) 34.58 (17) 22.00	磯崎あゆみ① (9) 45.29 (7) 10.31	位田 明優① (10) 1.00.09 (8) 14.40	不破聖衣来④ (4) 1.34.00 (2) 33.51	門脇 奈穂④ (4) 1.54.15 (5) 20.15	新井 沙希③ (4) 2.24.05 (3) 29.50	2.24.05
⑤順天堂大	石上 栞理② (7) 13.00	田島 愛理② (6) 21.30	石引 稚菜③ (5) 44.54 (5) 10.24	白木 美樹① (13) 14.56	小暮 真緒④ (5) 1.34.38 (5) 34.48	神林 由乃③ (6) 1.54.57 (6) 20.19	山際 夏芽④ (5) 2.25.09 (4) 30.12	2.25.09
⑥城西大	茂野 葉湖① (18) 13.30	兼子 心晴③ (18) 35.20 (13) 21.50	沖田 梨花① (13) 45.40 (4) 10.20	金子 陽向③ (6) 59.48 (3) 14.08	高橋 葵③ (8) 1.35.13 (9) 35.25	本澤 美桜① (8) 1.55.52 (11) 20.39	石川 苺② (6) 2.25.27 (2) 29.35	2.25.27
⑦大阪学院大	小林舞妃留④ (4) 12.58	山下 彩菜③ (6) 34.30 (7) 21.32	依田 采巳② (6) 45.03 (10) 10.33	佐内 瑞希① (4) 59.44 (9) 14.41	依田 采巳④ (6) 1.34.40 (7) 34.56	永長 里緒 (5) 1.54.45 (3) 20.05	千葉 妃華② (7) 2.25.52 (9) 31.07	2.25.52
⑧名城大	柳楽あずみ③ (15) 13.15	米澤奈々香③ (13) 35.05 (13) 21.50	近藤 希美① (14) 45.49 (14) 10.44	瀨木 彩花② (12) 1.00.20 (7) 14.31	谷本 七星④ (7) 1.35.01 (4) 34.41	原田 紗希③ (7) 1.55.27 (7) 20.26	山田 桃子① (8) 2.26.53 (12) 31.26	2.26.53
⑨東北福祉大	武田 莉奈② (20) 13.35	中野 芽衣① (14) 35.10 (8) 21.35	矢内 楓恋② (11) 45.36 (6) 10.26	柴田 梨花④ (7) 59.50 (4) 14.14	佐々木菜月② (9) 1.35.47 (11) 35.57	平藤 橋菜③ (10) 1.56.34 (12) 20.47	村上 果蓮① (9) 2.28.14 (6) 31.40	2.28.14
⑩亜細亜大	山崎 めい② (21) 13.36	菅谷 茉生④ (16) 35.15 (9) 21.39	黒江 彩聖④ (15) 45.58 (13) 10.43	高橋 雛乃② (18) 1.01.17 (17) 15.19	高橋 朱穂④ (12) 1.36.39 (8) 35.22	沖 千都③ (12) 1.57.26 (12) 20.47	出口 歩果③ (10) 2.28.21 (7) 30.55	2.28.21
⑪筑波大	田中 柚良① (12) 13.12	白川 朝陽① (9) 34.55 (11) 21.43	勝 くるみ② (8) 45.27 (8) 10.32	鈴木 美海① (5) 59.46 (5) 14.19	小松 夕夏③ (10) 1.35.55 (13) 36.09	今 美里② (9) 1.56.26 (9) 20.31	市川 碧花③ (11) 2.28.26 (20) 32.00	2.28.26
⑫中央大	木下 紗那③ (11) 13.07	武田 胡春① (11) 35.00 (15) 21.53	島貴恵梨子④ (10) 45.32 (8) 10.32	南 日向③ (16) 1.00.58 (19) 15.26	浜野 光③ (13) 1.36.45 (10) 35.47	大塚 明実④ (14) 1.57.50 (17) 21.05	並木 美乃③ (12) 2.28.48 (8) 30.58	2.28.48
⑬兵庫大	樽本 知夏① (2) 12.57	長岡 あず④ (4) 33.59 (4) 21.02	福永 愛佳④ (4) 44.51 (18) 10.52	杉村 瑞稀② (11) 1.00.12 (18) 15.21	大西 文香② (11) 1.36.20 (12) 36.08	尾中 花和③ (13) 1.57.39 (21) 21.19	白井かすみ④ (13) 2.29.22 (17) 31.43	2.29.22
⑭全日本選抜	小川 陽香② (立教大) (1) ▲12.42	丸毛 萌愛② (駿河台大) (5) 34.28 (12) 21.46	日影 柚月④ (金沢学院大) (7) 45.06 (12) 10.38	清水 杏夏③ (新潟医療福祉大) (9) 59.53 (11) 14.47	長島 奈南② (城西国際大) (16) 1.37.43 (22) 37.50	谷口 萌優④ (京都光華女子大) (16) 1.58.36 (15) 20.53	古西 亜海③ (明治国際医療大) (14) 2.29.28 (6) 30.52	2.29.28
⑮関西大	大西 友菜 (19) 13.33	前田 彩花 (8) 34.48 (5) 21.15	室山 真優① (18) 46.05 (23) 11.17	新山 心友② (15) 1.00.54 (12) 14.49	有田菜合香③ (15) 1.37.34 (18) 36.40	石松 空④ (15) 1.58.00 (7) 20.26	岩本 風音③ (15) 2.29.32 (13) 31.32	2.29.32
⑯玉川大	藤田 仁乃④ (14) 13.14	大木 志桜① (15) 35.14 (17) 22.00	小林真知香④ (17) 46.03 (17) 10.49	隅田 美羽② (17) 1.01.04 (14) 15.01	金原 千尋④ (17) 1.37.47 (20) 36.43	溝谷 咲子④ (17) 1.59.00 (19) 21.13	藤村 優季① (16) 2.30.19 (10) 31.19	2.30.19
⑰東洋大	渋谷 菜絵③ (17) 13.24	篠塚 美来③ (12) 35.03 (9) 21.39	萩原 結④ (12) 45.38 (11) 10.35	田中 璃子④ (14) 1.00.51 (15) 15.13	住野 友理② (14) 1.37.13 (15) 36.22	松木 七光② (11) 1.57.20 (4) 20.07	俵 やよい③ (17) 2.30.42 (23) 33.22	2.30.42
⑱帝京科学大	関口 歩花① (13) 13.12	山口あずさ④ (21) 35.28 (19) 22.16	村上 りの① (20) 46.28 (20) 11.00	佐藤 祥① (20) 1.01.55 (20) 15.27	粕谷 雫① (18) 1.38.33 (17) 36.38	中村 愛莉③ (19) 1.59.45 (18) 21.12	渡辺 笑夏③ (18) 2.31.22 (15) 31.37	2.31.22
⑲中京学院大	中村 柚香③ (8) 13.02	金子 藍④ (20) 35.23 (21) 22.21	伊波 滯② (19) 46.10 (16) 10.47	村上 倫① (19) 1.01.26 (16) 15.16	松本 実咲② (19) 1.38.36 (21) 37.10	三城 愛梨① (21) 2.00.07 (23) 21.31	渡邊 葵③ (19) 2.31.32 (11) 31.25	2.31.32
⑳大阪芸術大	菅崎 南花③ (16) 13.19	進藤 小春② (17) 35.15 (16) 21.56	村上 彩葉② (16) 46.00 (15) 10.45	小倉 侑々④ (13) 1.00.44 (10) 14.44	大沼 乃愛 (21) 1.38.47 (23) 38.03	宮田 伊織① (20) 2.00.05 (20) 21.18	青柳 朋花③ (20) 2.31.58 (19) 31.53	2.31.58
㉑関西外国語大	増原なつみ④ (22) 13.54	札幌 美桜③ (22) 36.49 (22) 22.55	矢吹 美宙② (22) 47.51 (21) 11.02	寺木みのり① (22) 1.03.34 (22) 15.43	三輪南菜子④ (22) 1.40.16 (19) 36.42	後田 乃愛① (22) 2.01.12 (16) 20.56	武田 芽依④ (22) 2.32.44 (13) 31.32	2.32.44
㉒東京農業大	石正 彩絵② (23) 14.10	益塚 稀① (23) 37.35 (23) 23.25	今井 亜実① (23) 48.34 (19) 10.59	河野 花② (23) 1.04.20 (23) 15.46	幸田 萌④ (14) 1.40.41 (14) 36.21	西山 英莉③ (23) 2.02.04 (22) 21.23	藤城さくら② (23) 2.34.15 (21) 32.11	2.34.15
㉓京都産業大	永吉 悠倭② (10) 13.04	今 絵里南② (19) 35.22 (20) 22.18	坂本有理佳② (21) 46.30 (22) 11.08	岡田 瀬奈① (21) 1.02.08 (21) 15.38	政田 愛梨④ (20) 1.38.44 (16) 36.36	黒田 奈那① (18) 1.59.33 (14) 20.49	飯田有里彩① (23) 2.34.26 (24) 34.53	2.34.26
㉔静岡県選抜	山田 葵④ (日本福祉大) (24) 14.18	眞田ひかる③ (亜細亜大) (24) 37.58 (24) 23.40	蝦花 花菜③ (静岡大) (24) 49.27 (24) 11.29	伊藤さやか④ (静岡大) (24) 1.05.45 (24) 16.18	石野 帆奈③ (東大版大) (24) 1.44.48 (24) 39.03	甲斐 星波④ (東海大静岡) (24) 2.07.06 (24) 22.18	鬼頭このみ④ (順天堂大) (24) 2.40.06 (22) 33.00	2.40.06
過去最高記録	高見澤安珠 (松山大) 12.42(16年)	五島莉乃・和田有菜 (中央大・名城大) 20.40(19年・20年)	米澤奈々香 (名城大) 10.03(22年)	山本 有真 (名城大) 13.55(19年)	不破聖衣来 (拓殖大) 32.23(21年)	増淵祐香 (名城大) 19.27(23年)	小林 成美 (名城大) 28.26(20年)	名城大 2.21.38 (2020年)

【海外派遣】

Zevenheuvelenloop 2024 ~セブンヒルズ・ロードレース 2024~

幹事長 三浦 拓也

1. 大会名：Zevenheuvelenloop 2024
2. 大会期日：2024年11月17日(日)
3. 派遣期間：2024年11月12日(火)～19日(火)
4. 場 所：オランダ・ナイメーヘン
5. 派遣種目：15km

6. 派遣選手(男子4名、女子4名)

男子：青木 瑠郁(國學院大學3年)
辻原 輝(國學院大學2年)
白川 陽大(中央大学3年)
網本 佳悟(東洋大学3年)

女子：野田真理耶(大東文化大学2年)
原田 紗希(名城大学3年)
小川 陽香(立教大学2年)
前田 彩花(関西大学2年)

7. 派遣スタッフ

チームリーダー：大後 栄治
(日本学連強化委員／神奈川大学)

総務兼コーチ：米田 勝朗
(日本学連強化委員／名城大学)

同行スタッフ：柳原 元
(インプレスランニング／世界陸連公認代理人)

マネージャー：三浦 拓也
(日本学連幹事長／東海大学)

8. 派遣目的と派遣選手選考について

FISU ワールドユニバーシティゲームズ(2025/ラ

イン・ルール、以下WUG)におけるハーフマラソンの強化策として、コロナ禍以前の2019年以來5年ぶりに、オランダ・ナイメーヘンで開催されるZevenheuvelenloop 2024の15kmロードレースに選手を派遣しました。これは、海外遠征を通して国際感覚を身につけるとともに、国際的にレベルの高い競技会に出場することで、日本の学生の競技力を試すことに重点を置いたものです。このレースでは過去、鈴木健吾選手(神奈川大学/現・富士通)や鈴木優花選手(大東文化大学/現・第一生命グループ)が出場し、その後の飛躍に大きく繋がるものとなりました。

派遣選手は、第27回日本学生ハーフマラソン選手権大会並びに第27回日本学生女子ハーフマラソン選手権大会、第93回日本学生陸上競技対校選手権大会男女10000mの結果を基に選考されました。なお、WUGの強化策であることから、3年生以下を選考対象としております。

9. 派遣大会について

上記の通り、2019年以來5年ぶりにオランダ・ナイメーヘンで行われたZevenheuvelenloop 2024、15kmのロードレースに選手を8名を派遣いたしました。出場者が4万人を超える本大会には、国際大会でも名を馳せるランナーが数多く出場する、大変レベルの高いレースとなっております。この大会は、非常に起伏が激しく、7つの丘を越えるというタフなコースであり、速さだけではなくアップダウンに対する適応力が求められます。

10. 大会結果

男 子	
Jacob Kiprimo (ウガンダ)	40分42秒(1位)
青木 瑠郁(國學院大學3)	43分21秒(4位)
辻原 輝(國學院大學2)	43分55秒(10位)
白川 陽大(中央大学3)	44分50秒(26位)
網本 佳悟(東洋大学3)	46分50秒(47位)
女 子	
Mizan Alem (エチオピア)	46分51秒(1位)
小川 陽香(立教大学2)	49分39秒(5位)
野田真理耶(大東文化大学2)	49分55秒(8位)
前田 彩花(関西大学2)	49分58秒(9位)
原田 紗希(名城大学3)	52分27秒(20位)



オランダで貴重な世界の経験を積んだ学生ランナーたち

11. 大会の総括

今回の派遣では、多くの選手が海外レースに初出場という状況の中、行きの飛行機はドバイでの乗り継ぎを含め、オランダに到着するまで19時間ほどの時間を要し、選手達にも疲れの色が見えていました。到着後、食事や日本の軟水とは異なる硬水に対しての順応がうまくいかず、体調を崩してしまった選手もいました。ですが、選手個人で持参していたアルファ米等を活用しながら工夫を凝らして体調を整えており、さすが学生トップクラスの選手達であると感じました。また、他国の選手が食べているものを観察し、「日本にいる時と近い状態で、効率良くエネルギーを補給するにはどうしたら良いか」を考えている様子も見受けられました。普段と異なる環境での調整とはなりましたが、それぞれの最適な形でレースに向けて調整している姿が印象的でした。

レース当日は、前日の夜中からレースの直前まで雨が降ったり止んだりしていた影響で、現地に入ってから最も気温が下がるコンディションとなりました。ただ、レース直前には天候に恵まれ、時折陽が差し青空も観ることができました。

レースは男子と女子が一斉にスタートする形で始まり、男子の部はハイペースで推移していきました。先頭を走る、Kiprimo選手は5 kmを13分44秒で通過し、2位集団とこの時点で56秒差をつける、凄まじい走りを見せました。その2位集団には青木選手と辻原選手が食らいつき、5 kmを14分38秒で通過しました。白川選手と網本選手は14分59秒で5 kmを通過していく形となりました。

激しいアップダウンが続く、レースの終盤に差し掛かる10km地点では、先頭をひた走るKiprimo選手がアップダウンをもろともしない、27分14秒という衝撃的なタイムで通過し、2位集団との差は1分01秒に拡大しました。2位集団では、青木選手と辻原選手が集団についていく形となりました。中盤にかけて辻原選手が積極的に青木選手の前に出る展開も見られるようになり、10km地点を辻原選手が29分13秒、青木選手が29分15秒で通過しました。その後ろでは、白川選手が30分00秒、網本選手が30分52秒で10kmを通過しました。

男子の部を制したのは、終始先頭を守り抜いた、Kiprimo選手でした。昨年と同大会で自身が記録した41分05秒を27秒更新し、40分42秒という衝撃的な世界記録を樹立しました。また、最後まで2位集団に

食らいついた青木選手がフィニッシュ500m手前で猛烈なスパートをかけ、日本人初の表彰台は惜しくも逃したものの、本大会における日本人歴代最高記録である43分21秒で4位となりました。辻原選手も粘りの走りを見せて10位、白川選手が26位、網本選手が47位でフィニッシュしました。

女子の部は、序盤は比較的大きな集団となり、最初の1 kmを3分13秒～15秒で通過。野田、原田、小川、前田の4選手が集団内でレースを展開しました。5 km地点では、Alem選手が後続を引き離し、15分54秒で通過しました。この地点での日本人トップは小川選手となり、16分41秒で通過しました。その後ろに野田選手が続き16分46秒、前田選手が16分49秒、原田選手が17分03秒で通過し、レースが流れていきました。

10km地点では、首位をひた走るAlem選手が31分27秒で通過しました。日本勢は小川選手が33分18秒で最上位の通過、それに続いたのは2人で競うようにレースを進めてきた野田選手と前田選手で33分26秒、原田選手が34分39秒で通過していきました。

Alem選手は勢いそのままに46分51秒でフィニッシュテープを切りました。序盤から積極的なレース運びを見せた小川選手が49分39秒でフィニッシュし、日本女子勢トップとなりました。終盤まで互いに競り合いながらレースを展開した野田選手が8位、前田選手が9位でフィニッシュしました。原田選手は20位でレースを終えました。

初めての海外遠征となった選手も多く、手探りでの現地調整となってしまった選手もいた中ではありましたが、各選手工夫を凝らしながらレースへ向かっていく姿が大変印象的な派遣となりました。思い通りの結果を残せた選手もいれば、思い通りにいかなかった選手もいるかと思います。ですが、この派遣で経験したことや感じたことを糧にして、2025年にドイツで行われるWUGや、東京世界選手権、その先の国際大会へ羽ばたいていってほしいと強く願っています。

以下、選手達のコメントを紹介して本大会の報告といたします。

参加選手たちのコメント

～セブンヒルズ・ロードレース 2024～



青木 瑠都 (國學院大学3年)

今回の派遣では、初めて海外に行くというこもあって最初は緊張していましたが、少しずつ食事や生活にも慣れることができました。大会結果としてはあまり求めていなかった中で、日本人最高タイムと日本人最高順位の更新と自分の思った以上の結果を出すことができ、海外でのレースに対しての自信にもなりました。中でもゴール前の表彰台争いで2、3位を譲ってしまい、4位になってしまったことはゴール直後からすごく悔しく、「世界で戦いたい」という言葉の重みを感じました。ラストの直線で2位と「勝てる」と思ったところから逆転され、今まで自分が簡単に口にしていた「世界」はここまで重いのかと思い知らされました。また、こういった舞台上で戦って勝つことの難しさとおもしろさも肌で感じることができました。

これは、争った自分にしかわからないことで、間違いなくオランダに来なければ感じるこのできなかつたことだと思います。レースが終わって考えてみれば、今まで自分の口にしていた『世界』がどれだけちっぽけで空虚なものなのかを実感しました。この経験は2025年のWUGはもちろん、自分がこれから目指していくことに対して必ず生きると確信しています。2025年のWUG、そしてその後の実業団でも世界と戦い、勝てる選手になるためにこの経験を持ち帰り、また更に上の舞台に選んでいただけるように努力を重ねていきたいと思います。

この度は、さまざまなご支援ご協力ありがとうございました。



辻原 輝 (國學院大学2年)

今回のオランダ遠征では、2025年行われるWUGに向けた強化事業として、オランダ・ナイメーヘンで行われるZevenheuvelenloop 15km ロードレースに日本学生陸上競技連合の派遣選手として出場する機会を与えていただきました。個人としては、WUG、そして今後の競技生活、約2ヵ月後の箱根駅伝に向けた強化、海外レースでの経験を積むことを目的として出場しました。

競技だけでなく、日常生活においても海外に行くことは自身としては初の経験となったため、日本とは8時間の時差のある環境下、ヨーロッパでの食生活など日本とは大きく違う環境の中でいかにレースに向けてコンディションを整えていくかを学んでいくことができました。

また、レースとしても直前に控える箱根駅伝をイメージしたペースで、箱根駅伝よりもタフなコースで行うことができたため、箱根駅伝に向けて自信をつけることができ、今後の競技人生において非常に貴重な体験をさせていただきました。



白川 陽大 (中央大学3)

オランダ・ナイメーヘンで行われたセブンヒルズ 15km ロードレースに日本学連の派遣選手として参加させていただきました。この遠征は2025年に行われるWUGの予行練習のような意味合いも含まれていました。そのため、ハーフマラソンで出場を狙う私にとって非常に良いチャンスをつかめるのではないかとということで、参加させ

ていただきました。

私自身、海外レースの経験は初めてでしたが、この遠征を通してこれからの競技人生に生きることが多くありました。湯船のない入浴、食べ慣れない食事、天候の違い等、初対面の選手との同部屋生活、日照時間の違い等、さまざまなものが初めての経験で、レースに向かっていくアプローチがかなり考えさせられるものが多くありました。また、所属チームのスタッフが常同しないことも、自分でどのようにすればうまくレースに向かっていけるのか、考え行動にすることができたと思います。

しかしながら、世界大会で通用する選手になるためには、このような環境にいち早く適応しなければならないと強く感じました。外国人選手も日本人選手も同じ環境での戦いのため、どのようにすれば彼らに相対して互角に勝負できるのか、これから考えなければならないと強く感じました。

また、視野が大きくなった点も、この遠征で得た物だと感じます。普段は練習をともにしない女子選手からの刺激や、駅伝だけにフォーカスする日本の大学チームの考えさせられることがありました。

私は今後、必ず世界大会に出場し、この遠征を経験してよかったと思えるような競技生活を送りたいと強く感じることができました。



網本 佳悟 (東洋大学3年)

オランダセブンヒルズ 15km ロードレース遠征に派遣していただき、大変貴重な経験をさせていただいたことに感謝をしています。

まず、今回のレースでは思うような走りができず、悔しい結果となりました。走りの面でさまざまな反省や課題が見つかりました。しかし、世界のトップ選手と同じレースを走れたことや同じ日本人の選手が上位入賞をして、トップ選手と勝負ができていたことを見て、とても刺激をもらいましたし、自分もこのような大会で上位争いをしてみたいという気持ちを強く持つことができました。

この遠征では、普段関わることがない他大学の選手と生活をして、多くのコミュニケーションを取れたことで競技に対する姿勢や取り組み、普段の行動を見て多くのことを学ぶことができ、自分にプラスとなる情報を吸収する事ができました。初の海外遠征ということで時差や長時間移動への対応、日本とは違う食事や環境の中で生活をしてとても勉強になりました。

今回の遠征を通して、世界のトップ選手と勝負できる選手になりたいという気持ちやもっと練習をしてみんなに追いつきたいと思うことができました。今回の経験をチームにも共有をし、チームのレベルアップにも貢献できればと感じました。



野田 真理耶 (大東文化大学2年)

今回、オランダのナイメーヘンで行われた、ロードレースに日本の派遣選手として選んでもらって、日本では味わうことのできない試合の雰囲気を感じることができました。時差ボケはしなかったのですが、試合の前日に

喉の痛みが出るなど万全な状態で臨むことはできなませんでした。飛行機内の乾燥や気候の変化に対応する力や準備の足りなさに気づかされました。

レースでは、人が多い中でスタートに転倒しないかと心配になりましたが、うまく走り始めることができました。レースの前半はあまり思うような走りができなかったのですが、自分の得意とする上り坂でリズムを作り、前との距離を縮めることができました。しかし、下り坂で脚がスピードについていけず、他の選手から追いつかれたり追い抜かれたりしてしまいました。今回のレースで下り坂をうまく走ることが自分にとっての大きな課題だと知ることができたので、改善していきたいと思っています。

普段はライバルである選手と一緒に生活したり、海外選手のアップを見たりして、たくさん刺激をもらえました。これから、日本の選手だけと争い、比べるのではなく、視野を広げ、世界の舞台でも活躍できるような選手になりたいと思いました。2025年のWUGに向けてとても良い経験になりました。



原田紗希 (名城大学3年)

3度目の海外レースでしたが、8時間という大きな時差、20時間の移動からのレースは初めてでした。また、食事面に関して中国や香港と日本とは大きな違いはないですが、ヨーロッパと日本は大きく異なり、その中で力を発揮することや体調・身体の管理、状態を上げていくことの難しさも初めて体験しました。

他大学の選手と同じ部屋で過ごしたり会話をしたりする中で、練習前後の取り組みや普段の生活・練習内容などについても見たり聞いたりすることができ、今の自分やチームに足りないものを知ることができました。

レースは直前に体調を崩してしまったこともあり、力を発揮できず悔いの残る結果となってしまったが、さまざまなことを学ぶことができ、2025年に同じヨーロッパで開催されるWUGに向けて、とても良い経験となりイメージ作りができました。

これまで、海外レースを経験させていただく機会はありませんでしたが、いつもチャンスが無駄にしまい結果を残すことができずにいます。2025年度のWUGこそ、まずは確実に出場権を手にし、結果を残したいです。また、このオランダのロードレースも必ず次回リベンジして鈴木優花さんの記録を超えたいです。



小川陽香 (立教大学2年)

この度は海外のアスリートの方々と一緒に走るという貴重な経験をする機会をいただき、本当にありがとうございました。自身3度目の海外レースということで、いつもと違う環境で走るということには少しずつ慣れてきたように感じます。食事の面や練習環境などにおいて、初の海外遠征の時は何もわからず周りに合わせて行動することしかできませんでした。しかし、今回のナイメーヘン派遣では、レース前日に食べる主食を持参したり、坂の少ない道をジョグするようになりたりするなど、レースに向けた調整という点でかなり自分で考えて行動できた面が多かっ

たと感じます。

また、初めての15kmという未知の距離ではありましたが、初めてだからこそ失敗を恐れずに積極的に走ることができたのではないかと思います。しかし、海外のエリートランナーの方々と一緒に走ることで、まだまだ自分の実力不足も実感しました。2025年のWUGを含め、世界の選手たちと戦っていくためにはさらなる成長が必須だと感じます。そのためにも、今回の経験を今後の競技生活に生かしてさらに練習に励んでまいります。

最後になりますが、今回のナイメーヘンロードレース派遣に際してご尽力いただいたすべての方々に、感謝申し上げます。



前田彩花 (関西大学2年)

【レースについて】

最低ラインの50分切りを果たせましたが、同じ日本人として、パリ五輪で活躍した鈴木優花選手との実力差を改めて感じました。ラスト5kmが15分台が上がっているのが、本当にすごいなと思いました。このコースはまだ下りで終わるのでごまかせましたが、後半は小さな上り坂でも足の負担が大きく感じたので、後半の上り坂は自分にとって大きな課題であると思いました。コースと自分の走りの特徴を組み合わせる走ることの大切さを改めて実感しました。

女子優勝選手のタイムが46分49秒で、1km平均3分07秒で走っていて圧倒されましたが、同じ1人の女性であることを忘れないでおきます。日本の選手だけを見るのではなく、世界の選手の走りやタイムを視野に入れて、これから日々を過ごしていきたいです。海外の選手と並走してみて、上りはゆっくりで下りはとても速かったので、戦略は世界共通なのだなと感じました。海外の選手と一緒に走れたことは、視野を世界に広げるきっかけになりました。

【コンディショニングについて】

長時間の移動疲れや、日々の身体の状態を見て、普段の調整練習と大きく変更したことはよかったです。3日目の午後に腹痛があり、下痢が続いたので、次回からはバイクは火の通った食べ物を選ぶこと、毎食前は手洗いうがいと、持参した消毒液を使用することを徹底しようと思いました。刺激練習の動画を見ると、動きが全体的に固かったので、フライト中、特に上半身をこまめに伸ばすことと、血行を良くするシールやクリームなどを使用したり、筋膜リリースを積極的に行ったりすることが大事だと思いました。

海外の選手は、パンがない時の炭水化物をバナナで代用する人が多かったです。また、現地で初めて見た炭水化物の料理があったので、出発前に現地の食べ物を調べておくことも大切だと感じました。味にクセがあるものが多かったので、アルファ米はとても役立ちました。

改めて、2025年のWUGに向け、海外で大会に出場するという貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。初めての海外レースはとても不安でしたが、スタッフの手厚いサポートと温かいご支援により、無事にスタートラインに立つことができました。日本代表として貢献できるよう、まずは選考レースを勝ち抜き、今回の学びを本番に繋げていきます。

【会議報告】

令和7年 学生役員会議

副幹事長 桑原 悠真

期 日：2024年12月14日(土) 12:00～13:30

会 場：TKP新宿カンファレンスセンター

本会議では、各地区学連の学生役員が集まり、来年の学連活動における大会や事務関係の説明を行いました。本連合の学生役員の活動任期は、12月31日をもって終了となります。1月からスタートする令和7年の新学生役員が集まり、日本学連主催大会についての確認事項や、新年度の学連登録・競技会の開催申請などについて各担当者から説明をし、令和7年も円滑な学連活動を進めていけるように情報共有を行いました。また、理事会後に行われる理事・学生等を交えた役員懇親会が今年も開催されました。懇親会の中では卒業役員を送る会が執り行われ、出席していた卒業予定の学生役員に記念品が贈呈されました。卒業する学生役員からは学連活動を通じた思い出や感謝の言葉などが述べられ、会場は拍手に包まれる素晴らしい会となりました。

【会議報告】

1. 令和7年の学生役員について

次年度4年生の三浦拓也が幹事長に推薦され、理事会に提案されることとなりました。

(令和7年学生役員一覧は理事会資料として別項掲載)

2. 事務手続きについて

年度始めに必要な正会員名簿や功労章推薦書など、書類の提出を各地区学連に説明し依頼しました。

3. 令和7年2～3月の日本学連主催・共催大会について

令和7年2～3月に行われる日本学連主催・共催競技会4大会について、エントリー等の事務作業の説明を行いました。また、4月以降の日本学連主催競技会も含めた資格審査の注意事項について説明を行いました。

4. B級審判員資格取得について

各地区学連での講習会をもとに与えられるB級審判員資格について、取得までの流れや注意事項の説明を行いました。

5. 普通会員登録・スポーツ安全保険について

基本の学連登録作業とスポーツ安全保険の適用について説明を行いました。

大学院や分校などの扱いに注意しながら、登録会員を一人も取りこぼすことがないように登録業務のルールの厳守と正確さを徹底していくように改めて確認しました。

6. 公認競技会申請とWRk申請及び記録公認申請について

2月に締切となる来年度最初の公認競技会開催申請と年度途中での追加申請、そして競技会終了後の記録公認申請について、全体的な流れを確認し、申請方法の周知や注意事項の徹底を促しました。また、2023年から始まったWRk申請の改善点や来年度に向けた説明を行いました。申請漏れのないように日本学連と各地区学連間の連携を強化していくことを再確認しました。

公益社団法人日本学生陸上競技連合 卒業学生役員一覧(2024年)

No.	氏名	日本学連役職	地区学連役職	所属大学
1	吉田 飛菜	2023年常任幹事		東北大学
2	寺西 駿	2024年常任幹事		中京大学
3	森川 弓月	2023年幹事	2023年北海道学連幹事長	北海道大学
4	沼田 倫		2023年北海道学連会計	札幌国際大学
5	阿部 北斗	2023年幹事	2023年東北学連幹事長	宮城教育大学
6	船山 雄太		2023年東北学連会計	宮城教育大学
7	松尾 航	2024年幹事		東洋大学
8	目黒 亜実	2024年幹事		駒澤大学
9	芝野 泰示	2023年幹事	2023年北信越学連幹事長	信州大学
10	森田 琉生		2023年北信越学連会計	信州大学
11	岡江 未莉	2024年幹事・2023年幹事	2024年東海学連幹事長	至学館大学
12	鳥山 修人		2024年東海学連会計	名古屋大学
13	松田 愛香	2024年幹事・2023年幹事	2024年関西学連幹事長	同志社大学
14	中水 舞乃	2024年幹事	2024年関西学連会計	甲南大学
15	野坂 勇真	2023年幹事	2023年中国四国学連幹事長	広島大学
16	山口 太陽		2023年中国四国学連会計	広島大学
17	江川 未悠	2023年幹事	2023年九州学連幹事長	西南学院大学
18	丸林 奎斗		2023年九州学連会計	西南学院大学

※連合役員経験者・地区三役経験者

【会議報告】

第69回理事会

1. 開催日時：令和6年12月14日（土）
13時55分から16時21分
2. 開催場所：TKP新宿カンファレンスセンター6E
3. 理事総数および定足数：現在名、定足数12名
4. 出席理事数：19名
(出席理事) 有吉 正博、小倉 幸雄、片平 誠人、
蒲原 一之、苅部 俊二、北井 敏雄、工藤 洋治、
黒須 雅弘、障子 恵、大後 栄治、鶴崎 健一、
永井 純、長澤 光雄、日隈 広至、広川龍太郎、
福島 洋樹、松本 正之、安井 年文、山下 誠
(出席監事) 山本 俊樹、細萱 智大
(欠席理事) 秋元 恵美、岡崎 朋美、関根 春幸

5. 議 題

【競技事項】

- 第1号議案：本年度普通会員について（最終提案）
第2号議案：F I S Uワールドユニバーシティゲームズ（2025/ライン・ルール）について
第3号議案：令和7年度主要事業日程案について
第4号議案：令和7年学生役員候補者について
第5号議案：第5回全国大学対校男女混合駅伝について
第6号議案：職員再雇用について
第7号議案：その他
- 日本陸連 功労章、秩父宮章推薦について
 - WUG男子ハーフマラソン日本代表選手選考委員会について

【報告事項】

- ①会務の報告
- ②各主催駅伝大会について
 - 第37回出雲駅伝
 - 第43回全日本大学女子駅伝
 - 第57回全日本大学駅伝
 - 2024富士山女子駅伝
- ③第93回日本 I C 報告 決算
 - 日本インカレ/メディアレポート
- ④ナイメーヘン（オランダ）派遣について
- ⑤ E X P O 駅伝について
- ⑥ M B C 協働事業について
- ⑦第94回日本 I C（岡山）について

⑧第68回指導者会議について

⑨その他

- 日本学生ハーフマラソン選手権（丸亀）について
- 日本学連マーケティングについて

6. 議事の経過およびその結果

(1) 定足数の確認

(2) 議長および議事録署名人の選出

本会の招集者である松本正之会長が議長に選出され、開会を宣した。

議事録署名人は定款33条に基づき、松本正之会長、有吉正博副会長、細萱智大監事、山本俊樹監事が選出された。

(3) 議案の審議および議決結果等

【協議事項】

第1号議案：本年度普通会員について

永井純専務理事より資料に基づき2024年度普通会員について説明があった。

11月末時点で19,845名が登録した。2万人の目標を掲げているがもう一步という結果になった。前回理事会から増員となった111名について、審議の結果、提案内容を承認することを出席理事全員一致で可決した。

第2号議案：F I S Uワールドユニバーシティゲームズ（ドイツ/ライン・ルール）について

永井純専務理事および山下誠強化委員長より資料に基づき説明と提案があった。令和6年9月19日（木）に開催した第68回理事会にて来年度の個人選手権を選考会とすることに関して了承されたが、選考基準に関しては差し戻しとなったため修正を行った。

今回の見直しをする際に日本陸連から2点において修正要望があった。

1点目は選考方法についてである。選考競技会で上位に入った者の中でWAのランキングの上位から選抜したらどうかと提案があった。しかし、種目の特徴を鑑みるべきとの意見が強化委員会内で上がったため、今回は見送りとした。

2点目は、来年の2025世界陸上に向けて、ターゲットナンバーに入っている者は選考競技会を免除してほしいとの要望である。WUGはワールドランキングポイントに関わる大きな大会であり、日本陸連としては個人の強化をしっかりと行なっていく意図や、大会日程が過密になる中でアスリートを守りたいという意図で提案があったと考える。

標準記録に関して若干の変更がある。今回新たに

「標準記録(案)」を設定した。

男子の種目に関しては800m、1500m、3000m S Cに変更を加えた。女子の方も800m、1500m、5000m、3000m S Cに修正を加えた。修正の理由については、過去3大会の平均の記録、もしくは今年の各種目ランキング10位相当の記録を目安に設定した。今回、中長距離の修正が多く入った経緯としては、種目の特性上駆け引き等がある関係でパーソナルベストと記録に乖離が生じることを鑑みた設定とした。

審議の結果、提案内容を承認することを出席理事全員一致で可決した。

第3号議案：令和7年度主要事業日程案について

永井純専務理事より資料に基づき2025年度主催競技会および主要会議について提案があった。

競技会は9月13日(土)から21日(日)まで東京世界陸上が開催されるため、例年とは違う日程での開催となる。

2025日本学生陸上競技個人選手権大会兼WUG日本代表選手選考競技会に関してもJOCとの手続き上の問題があり、期日を早めて4月25日(金)～27日(日)で行う。本大会翌日の夕方からWUGの選手選考に関する理事会を行う予定である。

天皇賜盃第93回日本学生陸上競技対校選手権大会は6月5日(木)～8日(日)に岡山県のシティライトスタジアムにて行う。

ドイツのライン・ルール地方にて行われるWUGが7月21日～27日に開催される。例年はこの時期に実業団・学生対抗陸上競技大会が行われるが、実業団と協議を行い、8月9日(土)に開催したい。今年度は本連合が当番となるため滞りなく行うよう努める。

大会の開催日程がイレギュラーなことにより、理事会の開催日程が例年と異なる。5カ月以上理事会の設定がなく、協議事項も多くなることが想定されるため、9月にオンラインで臨時理事会を開催することも検討している。

審議の結果、提案内容を承認することを出席理事全員一致で可決した。

第4号議案：令和7年学生役員候補者について

永井純専務理事より、資料に基づき令和7年／学生役員候補者について提案があった。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

第5号議案：第5回全国大学対校男女混合駅伝について

永井純専務理事および北井敏雄理事により、資料

に基づき提案があった。

本大会の成り立ちの経緯は、関西テレビが2020年に前スポーツ長官を訪問した際、新しい駅伝を行ったらどうかという提案を受けたことがきっかけである。今までにない駅伝を企画した結果、男女混合駅伝開催案が関西学連へ持ち込まれた。関西学連では、男女共に強化していくためにはどのような駅伝が良いのか協議し、資料に記載があるように3km、2km、5km、3km、2km、5km、の6区間合計20kmの大会を行なってほしいと関西テレビに要望を出した。ヤンマースタジアム長居および長居公園内の周回コースを利用し開催している。これまで、地上波では関西テレビ、BSフジが、配信はTVerが行なっているが、認知度も高まってきたためより全国的な大会にしたいという要望があり、今回の議題となった。

5年前に大会名を「全日本大学対抗混合駅伝」にすることは可能かという話があったが、その際には「全日本」の文言は8地区学連が絡んでこないと使用できないとの結論になり、「全国大学対校混合駅伝」の名称なら良いのではないかと関西学連に提案をしていた。

これまで日本学連は後援という形をとっていたが、出場校に関東学連所属校が多く見られること等大会が全国規模に広まってきたことから、後援ではなく共催という形に変更できないか協議を行いたい。

ただ、共催になると事故があった際には法的な責任が関係してくることから、有事の際には主催者が責任を持つといった一文を記載できないか依頼している。

この際、多くの理事から共催に関する考え方について意見交換がなされた。(内容は省略)

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

第6号議案：職員再雇用について

永井純専務理事より資料に基づき職員再雇用について説明があった。

この際、一部理事から既存の規程の文言について意見があったが(省略)総務委員会において検討し、次回理事会に向け準備する形で進めることとした。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

第7号議案：その他

- 日本陸連功労章、秩父宮章推薦について

永井純専務理事より日本陸連功労章、秩父宮章推薦について提案があった。

推薦者の決定に関して、会長に一任する形で進めたい。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

- WUG男子ハーフマラソン日本代表選手選考委員会について

永井純専務理事よりWUG男子ハーフマラソン日本代表選手選考委員会について提案があった。

2025年2月2日に日本学生ハーフマラソン選手権大会を丸亀で開催することとなった。

今年度はWUG（ドイツ・ライン／ルール）日本代表選考大会となっているため、選手選考委員会を行う。委員は資料の通りである。代表選手は令和7年度日本学連普通会員に登録予定の者を対象とし、対象になる上位3名に内定を出す。4番目の選手を補員とする。

この際、理事から意見が出された。（省略）ハーフマラソン選手権大会における選考は、上位3名を形式的に内定するだけの場にするのではなく、追加選考やチーム構成などの実質的な戦略を意見交換して、最終的に選手選考の際に意見を伝えられるような場にすることが確認された。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

- 2号議案の補足について

2号議案にて承認されたWUGの選考要項について、日本陸連から公表する前に確認を行いたいとの申し出があった。通常であったら、理事会承認された後にすぐに公表を行うという形かと思うが、日本陸連にも確認をとって了承を得てから公表を行うことを承認いただきたい。

この際、以下のように質疑応答があった。
（松本正之会長）：日本陸連とのやり取りの途中で変更点が出た場合にはどうするのか。

（山下誠常務理事）：日本陸連から指摘があれば文言等は修正を行う。大幅な変更がある場合には改めて審議いただくことに関して承認願いたい。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

【報告事項】

①会務の報告

永井専務理事より、資料に基づき前理事会以降の職務報告について報告があった。

また、障子恵総務委員長、山下誠強化委員長よりそれぞれの担当分野における業務執行状況の報告が

あった。

②各主催駅伝大会について（出場枠 他）

山下誠強化委員長より、資料に基づき各主催駅伝について報告があった。

- 第37回出雲駅伝、• 第43回女子駅伝、• 第57回全日本大学駅伝

この際、以下の質疑応答があった。

（日隈広至理事）：現在シード枠は8校に設定されているが、シード枠を増やしていただけないかと言う要望が出ている。理由としては、本大会の選考会が過密なスケジュールの中で行われているため、シード校を増やす事で負担を被る大学を減らすことができると考える。厳しい状況であることは重々承知しているが、何卒ご検討いただきたい。

一部理事から意見交換があった。（省略）今後、関係団体間での検討を始めることとなった。

- 2024富士山女子駅伝：出場チームが決定したので報告を行なった。

③第93回日本 I C 報告決算

河野匠事務局次長より、資料に基づき第93回日本 I C（川崎）収支決算について報告があった。

（省略）

来年度は、岡山開催する際には交通費が300万程度増えることが想定されるため、節約をしつつ引き続き協賛についてももしっかり対応していく。

④ナイメーヘン（オランダ）派遣について

大後栄治理事より、資料に基づきナイメーヘン（オランダ）派遣について報告があった。

現在、名城大学の米田勝朗監督と共に陸上競技研究に海外派遣報告書として指導者の参考になるよう執筆を行なっている。渡航時間、気候、時差、食事などの様々な問題があったが、その中でどのように国内と同じパフォーマンスを発揮できるかといった面でも、学生のうちに海外派遣を経験させることは非常に大事な要素と考える。素晴らしい成績を残して帰国できたと思う。

今回の遠征では、大東文化大学の松尾コーチ、國學院大学の山口コーチが自費で参加をしたが、彼ら自身にも成長となったのではないかとと思われる。一人でも多くの選手ないしは若いコーチを派遣していくことが重要だと感じた。

⑤ E X P O 駅伝について

永井純専務理事より、資料に基づき E X P O 駅伝について報告があった。

E X P O 駅伝大阪の A B C 放送が中心となって企

画を行っており、実業団と学生で対抗戦を行うといった趣旨の大会である。学生チームとしては全日本大学駅伝にて入賞した8チームに加え関西学連選抜チームが出場する。

⑥SMB C協働事業について

河野匠事務局次長より、資料に基づきSMB C協働事業について報告があった。

今年度より、日本I Cの特別協賛に入ったSMB Cの協賛条件として3項目挙げられ、その内容に関して協議を進めてきた。SMB C側の対応部署が広報部門ではなく社会貢献を行う部門であるため、広報に関わるもの以外で日本学連と取り組んでいきたい3つの提案がなされた。

1点目は、「学生競技者への金融経済教育」である。3月に開催される幹部役員研修会にて学生幹事を対象にプログラムができるように準備を進めている。

2点目は「社員ボランティア、プロボノの受け入れ」である。今年度の日本I Cでは、ボランティアの方に給水、競技の撮影、広報にあたっていただいた。次年度は公益法人の事務局の運営サポートにプロボノとして入るといった話があるため、7月～9月に社員の方が事務局に入って法人の運営サポートに携わっていただく予定である。日本学連としても良い方向へ進めるよう、プログラムを組んでいきたい。

今回報告するのは3点目の「キッズ世代に対する運動支援」である。日本学連の公益事業はあくまで大学生の陸上競技の発展・普及・強化・研究・育成というところで、直接的に子供の運動教室を日本学連として行うことはできないことを前提に話を進めていく中で、子どもへの運動を教える学生指導者を育成するという建付けで先方と話を進めてきた。しかし日本学連にはこの件に関するノウハウが無いため、一般社団法人フューチャーアスレティックスが主催するWA認定のキッズアスレティックスプログラムの指導員資格を取るという既存の活動に賛同していただいて受講費を実費で請け負っていただくこととなった。

今年度のSMB Cとの関わり方としては、指導者育成のための金銭協力という形で、日本インカレの協賛金の一部を充当し行い、実際の体験プログラムを見てもらおうというといった形になる。

次年度以降はSMB Cが主催する運動教室に学生の指導者を送り込むというような形で協働事業として進めていきたいと考えている。

関東地区のみでの開催にはなるが、理事の方々に

も学生への周知に協力いただけたらと思う。

一部理事から意見があった。(省略)

(河野匠事務局次長)：協会の方からも様々な伝手を通じて大学の方にアプローチをかけるようお願いしている。ご意見はあると思うがご協力をいただきたい。

(松本正之会長)：集まり具合を見て様々な検討が必要である。

⑦第94回日本I C(岡山)について

河野匠事務局次長より、資料に基づき第94回日本I C(岡山)について報告があった。

明日、明後日と競技場の下見及び岡山陸協との打ち合わせ、コンベンションセンターへの挨拶を行う。岡山県警との挨拶に関しても計画をしていたが、来年度の体制が4月にならないと決まらないとのことで後日行うこととなった。過去2大会では、競技場の巡回等に協力いただけたため、今回に関しても協力いただけるように話を行なっていきたい。

⑧第68回指導者会議について

障子恵総務委員長より、資料に基づき第68回指導者会議開催について説明があった。

⑨その他

- 日本学生ハーフ選手権(丸亀)について大後栄治理事より、日本学生ハーフ選手権(丸亀)について報告があった。

先日エントリーを締め切った。当初はハーフマラソンのターゲットナンバー250名に加え、下級生等のハーフマラソンの経験の無い学生がいることを鑑み10000mでターゲットナンバー50名を設け合計300名の出場となるよう要項に記載したが、10000mで良い記録を持っているにも関わらずハーフマラソンの出場経歴がないために出場が認められないなど、能力差に疑義が生まれたため、今回はエントリー者全員の出場を認め、311名の出場となった。

来年度の要項をもう一度見直し、出場数が300人に収まるような形で修正をしていく必要がある。

・日本学連マーケティングについて

河野匠事務局次長より、日本学連マーケティングについて報告があった。

日本学連の今後の健全な財務基盤の確立を目指し、マーケティングを強化していく内容の説明があった。

以上をもって議案の審議等を終了したので、16時21分、議長は閉会を宣し、解散した。

資料

2025 主要競技会日程 2024 年 12 月 14 日時点

2025 年 (令和 7 年度) 主要競技会 (予定)			
1	第109回日本選手権10000m	4月12日(土)	熊本
2	2025日本学生陸上競技個人選手権大会 兼WUG日本代表選手選考競技会	4月25日(金)～27日(日)	平塚市
3	世界リレー	5月10日(土)～11日(日)	中国
4	天皇賜盃第94回日本学生陸上競技対校選手権大会	6月5日(木)～8日(日)	岡山
5	第109回日本選手権	7月3日(木)～6日(日)	(国立?)
6	第109回日本選手権(混成)	7月12日(土)～13日(日)	岐阜
7	第32回WUG/ドイツ	7月21日(水)～27日(月)	Rhine-Ruhr (GER)
8	秩父宮賜杯第65回実業団・学生対抗陸上競技大会	8月9日(土)	平塚市
9	東京2025世界陸上競技選手権大会	9月13日(土)～21日(日)	東京
10	第37回出雲全日本大学選抜駅伝競走	10月13日(月・祝)	出雲市
11	第43回全日本大学女子駅伝対校選手権大会	10月26日(日)	仙台市
12	秩父宮賜杯第57回全日本大学駅伝対校選手権大会	11月2日(日)	名古屋市～伊勢市
13	2025全日本大学女子選抜駅伝競走	12月30日(火)	富士宮市～富士市
14	第29回日本学生ハーフマラソン選手権大会	2026年2月1日(日)	丸亀市
15	第20回日本学生20km競歩選手権大会	2026年3月15日(未確認)	能美市
16	第29回日本学生女子ハーフマラソン選手権大会	2026年3月15日(未確認)	松江市
17	2026年 WUC (世界大学クロカン)	2026年4月以降の開催の場合は令和8年度	
2025年度(令和7年度)主要会議(暫定)			
1	第71回理事会(WUG)	4月28日(月)	オンライン
2	第72回理事会(2024事業報告)	6月5日(木)	岡山
3	第16回定時社員総会(2024事業報告)	6月21日(土)	未定
4	第73回理事会	6月21日(土)	未定
5	第74回理事会	12月13日(土)	東京
6	第75回理事会	3月7日(土)	東京
7	第51回学生幹部役員研修会	3月6日(金)・7日(土)	東京
8	第71回指導者会議	3月7日(土)	東京

資料

2025 年度学生役員

役職	氏名	フリガナ	大学	学年	地区
幹事長	三浦 拓也	ミウラ タクヤ	東海大学	4	連 合
副幹事長	桑原 悠真	クワハラ ユウシン	東京学芸大学	3	連 合
常任幹事	横川 侑香	ヨコカワ ユウカ	法政大学	4	連 合
常任幹事	村上 奈穂	ムラカミ ナホ	明治大学	3	連 合
常任幹事	河本 賀帆	カワモト カホ	東洋大学	2	連 合
常任幹事	永田 里桜	ナガタ リオ	学習院女子大学	2	連 合
常任幹事	高桑 康平	タカクワ コウヘイ	愛知教育大学	3	連 合
常任幹事	小椋 稜太	オグラ リョウタ	東北大学	3	連 合
幹 事	旭 来夏	アサヒ ユキナ	北翔大学	3	北 海 道
幹 事	出口 鈴葉	デグチ スズハ	宮城教育大学	3	東 北
幹 事	次呂久直子	ジロク ナオコ	東海大学	4	関 東
幹 事	新井 瑞己	アライ ミズキ	順天堂大学	3	関 東
幹 事	長束 文	ナガツカ フミ	お茶の水女子大学	4	関 東
幹 事	秋山 姫歌	アキヤマ ヒメカ	明治大学	4	関 東
幹 事	飯田 悠誠	イイダ ユウセイ	東京都市大学	4	関 東
幹 事	永井望ノ美	ナガイ ノノミ	信州大学	3	北 信 越
幹 事	浅野 蒼空	アサノ ソラ	岐阜大学	4	東 海
幹 事	吉田 剛	ヨシダツヨシ	至学館大学	3	東 海
幹 事	長島 千紘	ナガシマ チヒロ	愛知教育大学	4	東 海
幹 事	岡 俊輔	オカ シュンスケ	大阪大学	4	関 西
幹 事	山田祐希奈	ヤマタ ユキナ	園田学園女子大学	4	関 西
幹 事	正井 遥希	マサイ ハルキ	関西大学	3	関 西
幹 事	藤岡奈乃子	フジオカ ナノコ	広島大学	3	中 四 国
幹 事	小嶋康志郎	コザキ コウシロウ	西南学院大学	3	九 州

資料

第5回全国大学対校男女混合駅伝競走大会

1. 主催 関西学生陸上競技連盟 関西テレビ放送 産経新聞社
2. 共催 公益社団法人日本学生陸上競技連合
3. 運営協力 公益財団法人大阪陸上競技協会
4. 特別協賛 住友電気工業
5. 協賛 岩谷産業 他(予定)
6. 期日 2025年2月16日(日)12時10分スタート(予定)
7. コース ヤンマースタジアム長居及び長居公園内特設コース 全長20km
(3km、2km、5km、3km、2km、5km、の6区間を男女3名ずつ)
8. 出場資格 2024年度 日本学生陸上競技連合普通会員
9. 出場大学 エントリー 21チーム
◎シード校 12校(昨年度本大会上位12校)
(順天堂大学、日本体育大学、城西大学、京都産業大学、拓殖大学、関西大学、立命館大学、筑波大学、駿河台大学、中央大学、東洋大学、立教大学)
◎選考校 8校 ※シード校の出場辞退に伴い選考校数が変動する場合がある。
◎関西学連選抜 1チーム
10. 申込方法 選考審査用紙に必要事項を記入の上、inficaak@gmail.comまで提出すること。
【提出締切】2024年12月7日(土)
11. 選考方法 (1) 各チーム男女3名ずつ計6名が800m、1500m、もしくは5000mの公認記録をWAスコアリングテーブル(別紙)に基づき点数化し、その合計上位8校に出場権を与える。
※2023年4月1日～2024年12月7日までの公認記録を対象とする。
※男女とも5000mの記録を1名以上入れること。
※男女とも800mの記録は1名以内とする。
※留学生は男女通じて1名以内とする。
(2) 12月10日までに出場を辞退するチームが出た場合、選考審査対象校から繰り上げて出場を認める場合がある。
(3) 関西学連選抜は、男女とも5000m最上位各1名と、800m、1500mまたは5000mの点数上位男女各3名で編成する。
1チーム10名(監督1、マネージャー1、男子選手4、女子選手4)
12. チーム編成
13. 競技方法 (1) 2024年度日本陸上競技連盟競技規則駅伝競走規準を適用し、本大会申し合わせ事項 および競技者注意事項等により実施する。
(2) 交通・警備、競技運営上、各中継所において繰り上げスタートを行う場合がある。
14. 表彰 1位～8位までの入賞校および各区間賞の選手には表彰状ほか表彰物を授与する。
※関西学連選抜は区間賞のみを表彰対象とし、総合順位には含めない。
15. テレビ中継 本大会は関西テレビ、フジテレビの地上波(12時00分～13時30分)にて生中継を行う。
16. その他 (1) 競技中に発生した傷害・疾病についての応急処置は主催者で行うが、以後の責任は一切負わない。
ただし、2024年度日本学生陸上競技連合普通会員は、原則としてスポーツ安全保険に加入している
ので、この保険が適用される場合がある。
(2) 大会前日(15日)に監督代表者会議、競技終了後に表彰式・閉会式を行う。
(3) 大会参加校(関西学連加盟校)は要請された学生審判員・補助員を派遣しなければならない。
(4) 大会の映像は主催者および共催者の許可なく第三者がこれを使用すること(インターネット上において
画像や動画を配信することを含む)を禁止する。
(5) 本大会の記録公認申請は大会終了後の3日以内に行う。
(6) 主催者および共催者は、個人情報の保護に関する法律および関連法令等を順守し個人情報を取り扱う。
なお、取得した個人情報は、大会の資格審査、プログラム編成および作成、記録発表、公式ホームページ
その他競技運営および陸上競技に必要な連絡等に利用する。また、テレビ・ラジオ・新聞・雑誌・インター
ネット等の媒体に公表することがある。
(7) 大会の映像・写真・記事・個人記録等は主催者、共催者および主催者・共催者が承認した第三者が大
会運営および宣伝等の目的で大会プログラム・ポスター等の宣伝材料、テレビ・ラジオ・新聞・雑誌・
インターネット等媒体に掲載することがある。
(8) その他不明な点については、関西学連まで連絡すること。
17. 連絡先 〒553-0003 大阪市福島区福島4-6-2 アメニティ福島205号
関西学生陸上競技連盟 TEL 06-6442-8770 / FAX 06-6442-8771
大会担当 荒木 映愛

資料

執行役員による職務執行の状況報告(2024/9/19以降)

月 日	行 事 (報告内容)
9月19日(木)	第68回理事会 於：川崎市／等々力競技場会議室
9月19日(木)～22日(日)	天皇賜盃第93回日本学生陸上競技対校選手権大会開催 於：川崎市
9月24日(火)	第42回全日本大学女子駅伝・実行委員会 於：仙台市
9月25日(水)	日本I C終了挨拶及び事務打ち合わせ(川崎陸協) 於：日本学連事務所
9月30日(月)	SMB C 共働事業に関するミーティング(一般社団法人フューチャーアスレティックス)
10月1日(火)	総務委員会 ※日本学連事務所／オンラインの併催にて
10月2日(水)	日本陸連／アンチドーピングに関するミーティング 於：日本陸連事務局
10月8日(火)	第36回出雲駅伝・記者発表
10月9日(水)	第56回全日本大学駅伝・記者発表
10月11日(金)	公益法人認定法改正に関する研修会 於：新宿
10月12日(土)～14日(月)	2025/WUG日本代表選手選考要項検討会議 ※オンライン会議
10月18日(金)	SMB C 共働事業に関するミーティング 於：三井住友銀行本店
10月18日(金)	全国大学対校男女混合駅伝打ち合わせ(関西テレビ) 於：日本学連事務所
10月22日(火)	マイナビ／スポンサー活動に関する打ち合わせ 於：日本学連事務所
10月23日(水)	出雲市長面談 於：J R東海(東京)
10月24日(木)	E X P O 駅伝打合ミーティング (A B C / 実業団 / 関西学連) オンラインミーティング
10月26日(土)～27日(日)	第42回全日本大学女子駅伝 於：仙台市
10月29日(水)	第94回日本インカレ実行委員会(日本学連／岡山陸協／中四国学連) オンラインミーティング
11月2日(土)～3日(日)	第56回全日本大学駅伝開催 於：名古屋市～伊勢市
11月5日(火)	ナイメーヘン／オランダ・15kmロードレース派遣-参加者ミーティング オンラインミーティング
11月7日(木)	富士山女子駅伝交通対策会議 於：富士市・教育プラザ
11月11日(火)	2025WUG 日本陸連事務局ミーティング 於：日本陸連事務局
11月11日(火)	マイナビ／スポンサー活動に関する打ち合わせ 於：日本学連事務所
11月12日(火)～19(火)	ナイメーヘン／オランダ・15kmロードレース派遣(11/17が競技会)
11月14日(木)	富士山女子駅伝実行委員会 於：富士市・教育プラザ
11月15日(金)	2025WUG J O C 個別折衝(1 o n l ミーティング) 於：オンラインミーティング
11月15日(金)	J A A F 日本グランプリ協議会 オンラインミーティング
11月18日(月)	読売テレビ・日本インカレおよび2025年度計画打ち合わせ 於：日本学連事務所
11月19日(火)	ナイメーヘン／オランダ・15kmロードレース派遣／帰国 出迎え
11月20日(水)	富士山女子駅伝事務局会議(学生幹事) 於：(富士市)
11月21日(木)	2025マーケティング活動(株式会社メッセ)
11月21日(木)	WUG選考要項 検討会議 於：オンラインミーティング
11月22日(金)	富士山女子駅伝事務局打ち合わせ 於：(日本学連事務所)
11月25日(月)	2025日本学生ハーフマラソン選手権事務局会議 於：日本学連事務所
11月25日(月)	E X P O 駅伝事務局会議(A B C 朝日放送) オンラインミーティング
11月29日(金)	企画委員会準備会議 オンラインミーティング
12月2日(月)	強化委員会 オンラインミーティング
12月4日(水)	第42回全日本大学女子駅伝・実行委員会 於：仙台市
12月5日(木)	マーケティング部会 日本学連事務所およびオンライン併用
12月6日(金)	企画委員会 オンラインミーティング
12月6日(金)	指導者会議運営委員会 オンラインミーティング
12月6日(金)	J A A F 全国強化担当者責任者会議 於：N T C
12月9日(月)	富士山女子駅伝記者発表 於：静岡県庁
12月11日(水)	日本学生ハーフマラソン選手権 エントリー締め切り
12月14日(土)	2024年度学生役員会議 於：T K P 新宿カンファレンスセンター
12月14日(土)	第69回理事会 於：T K P 新宿カンファレンスセンター

資料

キッズインストラクター資格認定講習・体験会のご案内(案)

概要

WA (国際陸上競技連盟) はキッズ世代の身体能力向上のための教育プログラムを開発し、世界各国・地域で展開しています。この度、日本学連ではこのプログラムにおける日本で唯一のWA公認指導者の統括団体である日本キッズアスレティックス協会の協力のもと、このキッズ世代を対象とした「動きづくり」の指導者養成講座を、普通会员の皆様に向けて開講します。この講習を受講した方には日本キッズアスレティックス協会キッズインストラクター資格が認定されます。

この講習を受け資格を取得することで、キッズアスレティックスというグローバルな活動の指導者の一員になりますし、地域での子ども運動プログラムのリーダーとして社会に貢献することができます。また、講習を通じてコミュニケーション能力やコーチング能力を高めることができます。この機会にぜひご参加ください。

主催

公益社団法人 日本学生陸上競技連合

主管

一般社団法人フューチャーアスレティックス
(キッズ部門：日本キッズアスレティックス協会)



協力

三井住友フィナンシャルグループ

開催日時・会場

講習会) 2025年2月11日(火・祝) 9時から受付 9:30~16:30

於・武蔵大学 (東京都練馬区豊玉上1-26-1)

体験会) 2025年2月18日(火) 10時現地集合 10:30~12:30

於・千代田区立九段小学校 (東京都千代田区三番町16)

受講資格

2024年度日本学生陸上競技連合普通会員で走・跳・投の基本的な体力水準を有するもの

講習内容

キッズアスレティックスに関する理論(事前課題と講習日)の基礎的なコーチングの習得。講習日における実技能力及びデモンストレーションを含む指導演習の実践

募集定員

先着20名(定員を超えた場合、状況に応じて定員を増やす場合があります)

講習費

20,000円/支払方法に関しては後日ご連絡します

※内訳(当日講習及び教材費、事前課題審査及び資格認定料、事務手数料等)

資格取得後は年会費や資格更新料などの費用は一切かかりません

※三井住友フィナンシャルグループのご協力によりこのうち1人あたり5,000円を補助します(受講終了後、後日お振込みします)

体験会

キッズアスレティックス体験会は九段小学校の3年生を対象とした特別授業です。希望者には、この会に見学者、指導補助者として参加していただけます。実際の指導現場を見学する貴重な機会ですので奮ってご参加ください。

申込方法

以下のQRコードの申込フォームより1月17日(金)までに申し込んで下さい



URL:<https://forms.gle/4br9c8vQjPdLWxn86>

その他

主催者は、個人情報の保護に関する法律および関連法令等を遵守し個人情報を取り扱います。なお、取得した個人情報は、主催者と一般社団法人フューチャーアスレティックスのキッズ部門である日本キッズアスレティックス協会が本講習会・体験会に関わる連絡や資料送付、資格認定に関わることに使用します。

問合せ先

公益社団法人日本学生陸上競技連合 事務局

〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-58-11 中沢ビル2F

TEL: 03-5304-5542 Eメール: juauj@joy.ocn.ne.jp

資料

第70回指導者会議について(案)

- テーマ** : 日本学連における今後の指導者施策
- 主催** : 公益財団法人 日本学生陸上競技連合
- 目的** : 陸連では生徒児童が加入するクラブチームを立ち上げる際に、コーチ資格を持つ者の登録が義務化された。学連においては、コーチ資格を持つ者の登録は義務化されておらず、各大学の指導者の現状(資格の有無など)も把握できていない。また、昨今では、コーチ・指導者のモラル欠如に伴うトラブルも報告されている。そこで、今年度の指導者会議では、コーチ・指導者の現状把握に焦点を当てて、指導者登録制度の導入も視野に入れた方向で検討したい。
- 開催方式** : 対面とオンラインのハイブリッド方式
- 日時** : 令和6年3月2日(土曜日)
- 15:00~15:15 受付
- 15:15~15:20 開会挨拶(松本会長)
- 趣旨説明(木越清信 zoomにて)
- 15:20~15:50 障子 恵(総務委員会 委員長)
- 総務委員会として指導者に期待したいこと
具体的には、IDカードの不正利用問題、学生競技者の競技を見せて収益を得ている自覚
- 15:50~16:20 羽田 雄一(競技運営委員会 副委員長)
- 競技運営委員会として指導者に期待したいこと
具体的には、競技会に関する指導者からのクレームのほとんどは、正しい情報が伝わっていないことに起因している。情報が共有されるような工夫がほしい
- 16:20~16:50 船原 勝英(倫理委員会 委員長)
- 指導者からのハラスメント事例
学生より事前に聞き取って紹介
- 16:50~17:00 まとめ(滝川 哲也 指導者運営委員会 委員)
- 閉会挨拶(永井専務理事)
- 司会** : 船原 勝英(本連合 倫理委員長・指導者会議運営委員)

◆日本学生陸上競技連合「陸上競技研究」購読者募集◆

「学べる学連」を旗印に、1990年に「陸上競技研究」第1号が発行されました。この研究誌は、研究から得られた知見をコーチング現場に導入したり、逆にコーチング現場での問題点を研究によって解決しようという意欲の喚起に役立ちました。多くの総説、原著論文、研究資料、実践研究、一流競技者の育成過程をまとめた事例報告、国際競技会報告、卒業論文紹介、海外論文の紹介、海外事情など多くの読者に提供しております。これから得られる莫大な量の科学的知見が、我が国の陸上競技発展の一助になったことは間違いありません。昨今、購読者の減少が続いておりますが、日本学連の理念でもあります陸上競技の「向上と進展」のため、充実した発行に向け努力してまいりたいと思いますので今後ともご理解、ご協力の程宜しくお願い申し上げます。

※国際標準逐次刊行物番号：ISSN 0919-9918

「陸上競技研究」発行における令和6年度スポーツ振興くじ助成金の実施予算について

日本学生陸上競技連合は、「調査研究」を公益目的事業の1つとして掲げているなかで、「陸上競技研究」を年3回発行し、加盟校および購読会員の皆様にお届けしております。

令和6年度は、第135号～第137号を予定しております。本年も昨年に引き続き、スポーツ振興くじ助成(toto助成金)を受け、より充実した内容を目指して実施する予定です。この助成事業の令和6年度収支予算は以下の通りです。

【令和6年度「陸上競技研究」発行事業の収支予算書】

(収入)			(支出)		
科目	令和6年度	備考	科目	令和5年度	備考
くじ助成金	2,574,000	令和6年度決定	諸謝金	198,000	
自己負担額	1,623,860		旅費交通費	66,000	
購読者会費	700,000		消耗品費	66,000	
合計	4,897,860		印刷製本費	1,495,560	助成対象経費
			通信運搬費	544,500	
			編集費/デザイン	2,527,800	助成対象経費
			その他		
			合計	4,895,055	

強化委員会より 2024年の活動報告

強化委員長 山下 誠

2024年の日本学生個人選手権は日本選手権の直前となる6月14日から16日までの3日間、レモンガススタジアム平塚で開催された。女子100mで山形愛羽選手(福岡大)がU20日本新記録をマークしたのを筆頭に、8種目12回の大会新記録が樹立され、男子100mでは柳田大輝選手(東洋大)が準決勝で追い風参考ながら9秒97(+3.5)を記録し、観客席を大いに沸かせた。

7月20日には同じ平塚で第64回実業団・学生対抗陸上が今年度も日本GPシリーズとして開催され、対抗戦では実業団が昨年度に続き賜杯を獲得した。個人では女子100mハードルで12秒69(+1.2)の日本新記録を樹立し、大会MVPに輝いた福部真子選手(日本建設工業)のほか、5つの大会新記録が生まれた。

夏のパリ五輪では学生アスリートの活躍の他にも、過去のワールドユニバーシティゲームズ(WUG)出場者も多数出場し、躍動した。特に女子やり投の北口榛花選手(JAL)の金メダルは歴史的快挙となるものだった。FISU関連の大会や海外派遣を進めてきた強化委員会として、出場選手の功績の一助となれていれはうれしい限りである。

9月には川崎市のUvanceとどろきスタジアム by

Fujitsuで第93回日本インカレが19日から4日間の日程で開催された。総合成績では、男子は順天堂大学、女子は日本体育大学がともに連覇を果たした。パリ五輪代表の鶴澤飛羽(筑波大)が200mで、柳田大輝(東洋大)が100mでそれぞれ優勝し、走幅跳と三段跳で船田茜理(武庫川女子大)、棒高跳で柄澤智哉(日本体育大)が連覇する実力を示した。全競技を通して大会新記録が7種目8つ、U20日本新記録が1種目2つ誕生するハイレベルな大会となった。新設されたMVP賞(SMBC賞)には男子は110mハードルで優勝した阿部竜希(順天堂大)、女子は短距離種目で活躍したフロレス・アリエ(日本体育大)が選出された。

駅伝シーズンの始まりとなる出雲駅伝は10月14日に開催され、有力視された青山学院大学、駒澤大学、國學院大學が終始、上位争いを繰り広げる混戦となり、最終区のエース対決を制した國學院大學が5年ぶり2回目の優勝を果たした。10月27日の全日本大学女子駅伝では、史上初の8連覇を狙う名城大学に注目が集まったが、立命館大学が序盤から首位を守り抜き、大会新記録で9年ぶりに優勝した。11月3日の全日本大学駅伝では、出雲に続いて白熱した展開となった。6区で2位に浮上した國學院大學が、2区以降首位を守っていた青山学院大学を最終8区で逆転し、初優勝を飾った。

これらの駅伝大会では大きなアクシデントはなかったものの、近年の気象変化(気温上昇)への対応や予選会のあり方などが今後の課題となった。

競技委員会より 2024年の活動報告

競技委員長 関根 春幸

競技委員会では毎年、学生幹事と協力して競技会の準備を行っています。個人選手権、実業団対学生対抗、日本インカレ、ハーフマラソン選手権、競歩選手権、駅伝競走と多岐にわたります。

競技場・開催時期の決定を受けて、具体的な準備作業に入ります。すべての大会がワールドランキングコンペティションに位置付けられており、通常の競技会申請と60日前までに世界陸連(WA)に開催申請を出さなければいけません。開催申請作業が終わると、競技役員配置、競技注意事項の作成、競技日程、スタートリストの作成など準備作業もたくさんあります。

そんな準備を丁寧に進め、大会が近づくとプログラム原稿を作成し、印刷の発注、競技に使用するさまざまな物品の準備・競技場への搬入作業と続きます。競技会中も競技審判員として活動しますので、休む暇なく競技場内をあちこち動き回っています。駅伝やロードレースでは過酷な気象条件で実施されることが多く、給水所の追加や水やミネラルウォーターの準備、熱中症対策など万全の態勢を整えて大会に臨んでいます。

競技会の準備だけでなく、ルール修正が11月にWAで行われ、4月に日本でも新しいルールブックが出版され、

全国各地で審判伝達講習会が実施されます。修・改正されたルールをわかりやすく学生競技者や学生審判員に伝える活動も行います。特に、日本インカレは隔年で地方開催されるため、全国規模の大きな大会をあまり経験することのない地域での開催の場合には、リハーサル大会とまではいきませんが、学生審判員がきちんと大会の中で活躍できるよう実際の競技会の中での研修などを行っています。前述の通りワールドランキングコンペティションに位置付けられていることから、日本国内で適用されていない国際ルールを適用することもあります。学生競技者はFISUワールドユニバーシティゲームズに参加する学生もいます。そういう学生が世界のどこに行っても持てる力をしっかりと発揮できるよう、インカレでは一部国際ルールを適用して競技会を行っています。学生競技者の活動の範囲が日本を越えて世界に広がり、そういう大舞台でも緊張することなく、普段通りの力を発揮してほしいと思っています。

最後に、陸上競技の大会を開催するにあたっては、審判員を含めてたくさんの人が関わります。そこで必要になるのが、ルールと常識です。ルールは出版物としてルールブックがあるので、それを読んでいただければある程度理解はできると思います。常識は人それぞれに違いますが、少なくとも人に迷惑をかけない、大人としての行動規範をしっかりと持ち、競技場内で活動しているあるいは競技している一人ひとりがお互いを尊重し、一つひとつの大会が安全に終われるよう心掛けながら、大会の運営・準備をしたいと考えています。

令和6年 日本学生陸上競技連合

会員について(2024年度)

令和6年11月30日現在

正会員 135名 普通会員 19,845名 賛助会員 7名

日本学生陸上競技連合 普通会員の各月変遷 単位：人

	北海道	東北	関東	北信越	東海	関西	中四国	九州	月合計
年度前	242	624	4,943	674	1,132	2,189	758	1,037	11,599
4月	250	146	2,646	146	350	1,002	823	402	5,765
5月	135	86	616	200	163	226	130	107	1,663
6月	14	37	126	23	39	145	51	50	485
7月	5	12	53	9	14	30	15	19	157
8月	3	1	40	1	2	31	5	5	88
9月	0	4	31	3	1	13	6	5	63
10月	2	0	14	1	3	7	4	2	33
11月	0	0	11	2	1	0	3	2	19
12月									0
1月									0
2月									0
退会者			-7		-9	-10		-1	-27
合計	651	910	8,473	1,059	1,696	3,633	1,795	1,628	19,845

前回理事会
(9/19) 19,734名
増員数 111名

【参考：普通会員数の推移】

単位：人

年度	北海道	東北	関東	北信越	東海	関西	中国四国	九州	合計	前年比	5年前比	10年前比
2024	651	910	8,473	1,059	1,696	3,633	1,795	1,628	19,845	348 ↑	-451	389
2023	644	954	8,282	1,002	1,649	3,654	1,776	1,536	19,497	580 ↑	-1,245	923
2022	597	854	8,046	942	1,639	3,580	1,735	1,524	18,917	352 ↑	-1,866	743
2021	560	890	7,883	915	1,667	3,517	1,654	1,479	18,565	391 ↑	-2,132	687
2020	556	896	7,704	914	1,610	3,419	1,600	1,475	18,174	-2,122 ↓	-1,916	933
2019	702	979	8,373	996	1,938	3,764	1,787	1,757	20,296	-446 ↓	840	3,444
2018	726	1,017	8,487	1,024	2,073	3,808	1,832	1,775	20,742	-41 ↓	2,168	4,085
2017	749	973	8,588	1,009	2,098	3,758	1,853	1,755	20,783	86 ↑	2,609	4,450
2016	756	933	8,578	1,009	2,088	3,689	1,884	1,760	20,697	607 ↑	2,819	4,483
2015	705	943	8,221	1,021	2,007	3,547	1,904	1,742	20,090	634 ↑	2,849	4,269
2014	680	929	7,981	965	1,936	3,507	1,843	1,615	19,456	882 ↑	2,604	4,230
2013	628	914	7,547	903	1,835	3,383	1,781	1,583	18,574	400 ↑	1,917	3,991
2012	640	910	7,273	832	1,826	3,360	1,736	1,597	18,174	296 ↑	1,841	3,969
2011	711	933	7,065	834	1,756	3,236	1,723	1,620	17,878	637 ↑	1,664	3,929
2010	688	919	6,792	821	1,686	3,106	1,653	1,576	17,241	389 ↑	1,420	3,374
2009	715	878	6,641	879	1,611	3,000	1,630	1,498	16,852	195 ↑	1,626	2,920
2008	754	952	6,626	822	1,480	2,923	1,598	1,502	16,657	324 ↑	2,074	
2007	651	977	6,497	799	1,426	2,870	1,520	1,593	16,333	119 ↑	2,128	
2006	651	1,005	6,452	743	1,493	2,829	1,471	1,570	16,214	393 ↑	2,265	
2005	636	1,041	6,258	763	1,429	2,728	1,441	1,525	15,821	595 ↑	1,954	
2004	599	984	6,118	751	1,321	2,605	1,410	1,438	15,226	643 ↑	1,294	
2003	587	885	5,864	749	1,257	2,519	1,311	1,411	14,583	378 ↑		
2002	604	841	5,663	755	1,184	2,478	1,259	1,421	14,205			

令和6年度 賛助会員 (1月15日現在 五十音順、敬称略)

ご入会ありがとうございました

浅見美弥子 阿保 雅行 安藤 好郎 石黒 成彬 入江 毅 金子今朝秋
黒石 重幸 櫻井 孝次 田中 淳浩 豊岡 示朗 東川 安雄 藤井 邦夫
藤田 幸雄 山崎 健

賛助会員募集中

この法人の目的及び活動に賛同し賛助する個人又は団体の方は、是非ご検討ください。

〈年会費〉 賛助会員 ¥10,000 (1口)

※年会費は毎年納入していただく必要があります、年度内(3月31日)まで有効となります。

※本法人への賛助会費は寄付として扱われ、所得税等の納税控除の対象となります。

〈特典〉 ・会報への氏名・団体名の記載

・天皇賜盃日本学生陸上競技対校選手権大会への無料入場

〈入会手続きについて〉

①申込書(個人・団体)に必要な事項を記入し、本法人へ郵送又はFAXしてください。



②本法人の指定銀行口座へ、年会費をお振込み願います。



③ご入金を確認でき次第、本法人の賛助会員として登録させていただきます。

何かご不明な点がございましたら、下記事務局までお問い合わせください。

[発行所] 公益社団法人 日本学生陸上競技連合 〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-58-11 中沢ビル2階
TEL 03-5304-5542 FAX 03-5304-5569

編集後記

会報第171号(令和6年10月25日発刊)前後および以降の事業では、令和6年10月14日(月・スポーツの日)に第36回出雲全日本選抜駅伝競走が、出雲大社正面鳥居前(勢溜)をスタートし、出雲市内を周回する6区間45.1kmのコースに21チームが参加し開催されました。駒澤大学、青山学院大学、國學院大学、創価大学が優勝候補として挙げられていましたが、6区までもつれ、駒澤大学と國學院大学がしのぎを削り、最終的には中間地点で國學院大学の平林清澄選手がスパートをかけ、40秒の差をつけてそのまま逃げ切りました。國學院大学は5年ぶり2回目の優勝を飾りました。

令和6年10月27日(日)に第42回全日本大学女子駅伝対校選手権大会が、宮城県仙台市の弘進ゴムアスリートパーク仙台をスタートし、仙台市内を周回する6区間38.0kmのコースに26チームが参加して開催されました。8連覇を狙う名城大学、今回こそは2位返上を目指す大東文化大学、豊富な人材を擁する立命館大学が優勝候補に挙げられていましたが、名城大学は1区の滑り出しが悪く、それに比べて2区・3区において区間新記録で走った立命館大学が独走態勢を築き、追う大東文化大学、城西大学、名城大学を振り切り8年ぶりの優勝を飾りました。

令和6年11月3日(日)には、第56回全日本大学駅伝対校選手権大会が名古屋・熱田神宮をスタートし、伊勢神宮までの106.8kmのコースに27チームが参加して開催され

ました。2区から7区までレースを引っ張っていた青山学院大学でしたが、最終8区で國學院大学が逆転し、そのまま國學院大学が逃げ切って初優勝を飾りました。7区終了時点では先頭の青山学院大学に2分以上の大差をつけられていた駒澤大学が猛追を見せ、フィニッシュ直前で青山学院大学を抜き2位に入りました。

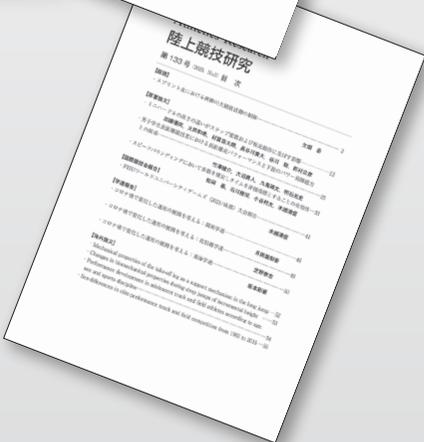
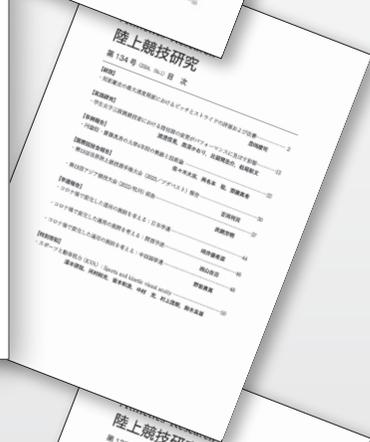
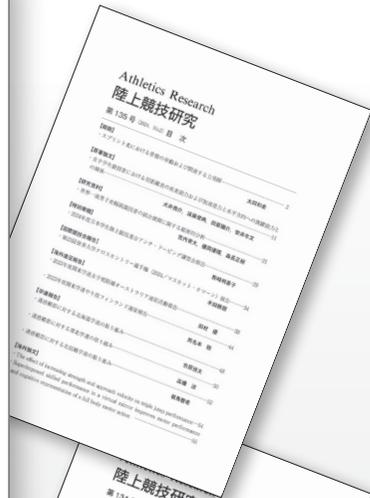
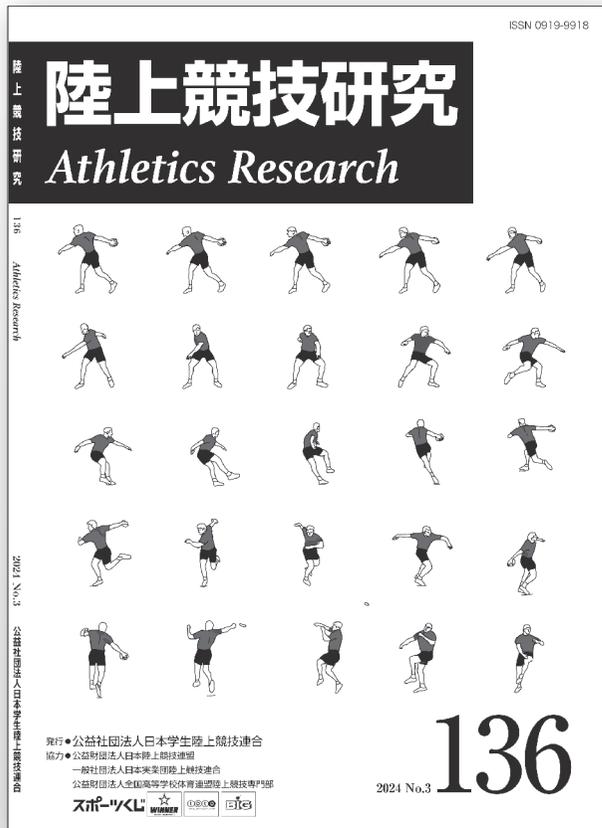
日本学生陸上競技連合の事業計画はトラック&フィールド、駅伝、ハーフマラソン、競歩の競技会を10大会行いますが、年中大会開催のためにがんばっています。これは強化委員会、競技委員会、総務委員会、医事委員会の先生方、また重要な仕事をこなしている幹事長をはじめとする学生役員、開催地での協力していただいている各都道府県陸協の先生方の皆様の献身的なお力によるものと感謝しております。

12月30日には2024全日本大学女子選抜駅伝競走が開催されます。連勝を続けている名城大学、全日本大学女子駅伝優勝の立命館大学、今回こそ優勝を目指している大東文化大学の活躍が期待されます。(11月執筆)

感染症の流行のニュースを時折聞きます。その中、日本学生陸上競技連合は用心に用心を重ね、また皆様からいろいろご意見をお伺いしながら粛々と、令和6年度の事業計画を進めていくつもりです。今後とも向上と進展を目指したいと存じます。

(副会長/専務理事 永井 純)

「陸上競技研究」購読のご案内



第136号
2024, No. 3
2024年10月発行



公益社団法人日本学生陸上競技連合は機関研究誌『陸上競技研究』を発行しています。購読会員として入会ご希望の方は、年会費(6,000円)を下記へ郵便振替にてご送金ください。

口座記号番号 00190-4-142923

加入者名 (株)陸上競技社 陸上競技研究

通信欄に「何号から1年間」と必ず明記してください。
バックナンバーについては(株)陸上競技社(Tel.03-5215-8881)にお問い合わせください。
※第137号(2025, No1)は2025年2月発行予定です。